

# 授 業 要 項



2026年度

富士市立看護専門学校

## 目 次

1.	履修の手引き・・・・・・・・・・	1			
2.	カリキュラムポリシー・・・・・・・・	5			
3.	進度表・・・・・・・・・・	6			
4.	行事・教科外活動・・・・・・・・	7			
5.	各年次の履修科目と時間数・・・・	8			
	本校における評価方法と内容	13			
6.	基礎分野				
	科学的思考の基盤				
	国語・・・・・・・・・・	14			
	情報科学・・・・・・・・	15			
	ICTと情報モラル・・・・	16			
	人間と生活・社会の理解				
	心理学・・・・・・・・	17			
	生物学・・・・・・・・	18			
	人間関係論Ⅰ・・・・	19			
	人間関係論Ⅱ・・・・	20			
	英語・・・・・・・・	21			
	社会学・・・・・・・・	22			
	生命倫理・・・・・・・・	23			
	運動と健康・・・・・・・・	24			
	文化と健康・・・・・・・・	25			
7.	専門基礎分野				
	人体の構造と機能				
	疾病の成り立ちと回復の促進				
	解剖生理・疾病論Ⅰ・・・・	27			
	解剖生理・疾病論Ⅱ・・・・	29			
	解剖生理・疾病論Ⅲ・・・・	31			
	解剖生理・疾病論Ⅳ・・・・	33			
	解剖生理・疾病論Ⅴ・・・・	35			
	解剖生理・疾病論Ⅵ・・・・	37			
	解剖生理・疾病論Ⅶ・・・・	39			
	看護につながる解剖生理Ⅰ・・	42			
	看護につながる解剖生理Ⅱ・・	44			
	生化学・・・・・・・・	46			
	臨床栄養学・・・・・・・・	47			
	微生物学・・・・・・・・	48			
	感染管理論・・・・・・・・	49			
	臨床薬理学・・・・・・・・	51			
	病理学・・・・・・・・	52			
	医療概論・・・・・・・・	53			
	公衆衛生・・・・・・・・	54			
	社会福祉・・・・・・・・	55			
	関係法規・・・・・・・・	56			
8.	専門分野				
	基礎看護学				
	看護学概論・・・・・・・・	57			
	看護過程展開の技術・・・・	59			
	共通基本技術Ⅰ・・・・	60			
	共通基本技術Ⅱ・・・・	63			
	生活援助技術Ⅰ・・・・	65			
	生活援助技術Ⅱ・・・・	67			
	生活援助技術Ⅲ・・・・	69			
	療養援助技術Ⅰ・・・・	70			
	療養援助技術Ⅱ・・・・	71			
	臨床看護方法論・・・・	73			
	臨床判断演習Ⅰ・・・・	75			
	地域・在宅看護論				
	地域・在宅看護論Ⅰ・・・・	76			
	地域・在宅看護論Ⅱ・・・・	78			
	地域・在宅看護概論・・・・	80			
	在宅援助論Ⅰ・・・・	81			
	在宅援助論Ⅱ・・・・	82			
	在宅援助論Ⅲ・・・・	83			
	成人看護学				
	成人看護学総論・・・・	85			
	成人看護学Ⅰ・・・・	87			
	成人看護学Ⅱ・・・・	89			
	成人看護学Ⅲ・・・・	91			
	成人看護学Ⅳ・・・・	93			
	成人看護学Ⅴ・・・・	96			
	老年看護学				
	老年看護学総論・・・・	100			
	老年看護学Ⅰ・・・・	101			
	老年看護学Ⅱ・・・・	102			
	老年看護学Ⅲ・・・・	104			
	小児看護学				
	小児看護学総論・・・・	105			
	小児の疾病と治療・・・・	106			
	小児看護学Ⅰ・・・・	108			
	小児看護学Ⅱ・・・・	109			
	母性看護学				
	母性看護学総論・・・・	111			
	母性看護学Ⅰ・・・・	112			
	母性看護学Ⅱ・・・・	114			
	母性看護学Ⅲ・・・・	116			
	精神看護学				
	精神看護学総論・・・・	117			
	精神疾患・症状と治療・・・・	119			
	精神看護学Ⅰ・・・・	120			
	精神看護学Ⅱ・・・・	122			
	看護の統合と実践				
	臨床判断演習Ⅱ・・・・	124			
	看護の統合Ⅰ・・・・	126			
	看護の統合Ⅱ・・・・	127			
	看護の統合Ⅲ・・・・	129			
	看護の統合Ⅳ・・・・	131			

## 履修の手引き

この手引きは、履修のために必要なことが書かれています。熟読かつ活用して、効果的に学修しましょう。

また、学生便覧の成績評定に関する規程、成績評定に関する規程細則についても熟読し、計画的に履修しましょう。

### 1. 単位取得についての注意点

- 1) 卒業までに110単位の履修が必要です。履修科目は全てが必修科目です。
- 2) 履修科目は1年次・2年次・3年次と履修の時期や順序が決まっています。さらに、未修得科目の状況により、臨地実習の履修ができなくなるので、履修要件を把握しましょう。

### 2. 評価方法について

- 1) 評価方法は筆記試験・技術試験・演習・課題・課題レポート・出席レポート等、各講師により異なります。授業要項で確認しておきましょう。但し、講師によっては授業要項の内容を変更する場合がありますので、開講後、担当講師の説明をよく聴いてください。
- 2) レポートをもって評価する科目については、指定された期限内に提出しなければなりません。やむを得ない理由により指定された期限内に提出できない者は、成績評定に関する規程に準じます。(7. 学科試験実施要領 6) 参照)
- 3) 学科試験の受験資格は、当該学科の授業時間数の2/3以上の出席を要します。なお、やむを得ない理由により欠席する場合を除き、授業全てに出席することが望ましいです。時間数の少ない講義もあるため、全ての時間に出席できるよう自己管理してください。
- 4) 追試験は病気・忌引き・公共交通機関の遅れ・就職試験・進学受験・その他校長が特別の事情と認めた場合には、必要な添付書類と追試験受験願を提出することで受験できることがあります。詳細は学生便覧の成績評定に関する規程第4条を参照してください。
- 5) 再試験を受けようとする者は、合否決定の翌日の午後5時までに再試験受験願を提出しなければなりません。提出できない者は、成績評定に関する規程に則り、受験できません。
- 6) 複数の講師により構成される科目については、それぞれに評価方法を提示してあるので、事前に確認してください。

### 3. 開講時の準備について

#### ※ 授業を受ける際の注意点

1単位の学修時間は「45時間」と文部科学省にて定められています。そのため、授業時間が45時間より少ない場合は、その不足する時間数は「自己学修時間」と設定されています。(例えば、1単位15時間の授業の場合は、不足する30時間が自己学修時間であり、1単位が30時間の授業の場合は、15時間が自己学修時間である) その点を意識して、十分な自己学修を行う必要があります。

- 1) 時間割で初講・終講、試験日を確認し、計画的に学修を進めてください。
- 2) 初講前には必ず授業要項を読み、科目の概要を把握し、必要なテキストを準備してください。また、

講義によっては事前学修課題が提示されることがありますので、計画的に課題学修を行い、授業に臨んでください。

#### 4. テキスト（教科書・副読本）の取り扱いについて

- 1) デジタル教科書については、オリエンテーションを設けます。使用方法・注意点等について理解し効果的に活用してください。
- 2) 冊子版のテキストは購入後速やかに不足や乱丁等を確認し、不都合のある場合は、直接購入書店に連絡してください。
- 3) 冊子版のテキストには必ず名前を書き紛失しないようにしてください。紛失した場合には再度購入が必要となります。

#### 5. 効果的な学修のために

- 1) わからないことをそのままにせず質問する等、理解できるように努めましょう。
- 2) 知識は、最終的には看護実践に活かすものです。暗記するだけでは役に立たず、根拠を踏まえ理解する必要があります。知識を積み重ね、関連性を意識して学修しましょう。
- 3) 講義では重要な点について取り上げています。一回だけのものですから大切にしましょう。集中することが知識の定着につながります。
- 4) 講義資料は整理し活用できるようにしましょう。その後の臨地実習の準備学修や国家試験の学修に役立ちます。
- 5) 剽窃行為に気をつけましょう。「剽窃（ひょうせつ）」とは他人の著作から全部または部分的に文章、図表、語句、話の筋、思想などを盗み、自作の中に自分のものとして用いることです。友人が書いたレポート等を写す行為は剽窃ですし、ネット上の情報を自分のレポートに貼り付けてしまう行為、いわゆる「コピペ」も剽窃です。他人のテキストを自分で入力しても剽窃になります。剽窃は倫理に反することであり、著作権を侵害するなど法に触れる場合もあります。（近畿大学教育改革推進センターHP より引用）
- 6) 生成 AI を利用して自分の成果物としてそのまま提出することは、著作権侵害や剽窃行為としてみなされる可能性があります。効果的な学修のために、生成 AI に過度に依存することなく、適切に活用しましょう。

#### 6. その他の注意事項

- 1) 時間割の変更について  
時間割の変更は1階掲示板及びCラーニングにて連絡します。緊急時は口頭でお知らせします。掲示板は、登校時及び下校時には確認する習慣をつけましょう。
- 2) 終講時は一部の講師に対しては「授業評価アンケート」を行います。目的はその科目に対する学生自身の学修姿勢や学びを振り返り、講師や教員の授業改善に向けての評価のために実施しています。授業評価アンケートの結果は担当講師に伝えます。真剣な取り組みをお願いします。
- 3) 講義中は私語や飲食は禁止です。水分補給（水・お茶）は可ですが、講義の妨げにならないよう、周りに配慮して飲みましょう。
- 4) 授業中、机の上には授業に関係のない私物は置かないようにしましょう。

- 5) 原則として携帯電話・スマートフォンは電源を切り、授業で使用する場合は教員の指示に従ってください。デジタル教科書をダウンロードしたタブレット等は使用できます。(学生便覧 P36 14. ソーシャルメディアに関する規程 参照)
- 6) 居眠りはしないでください。
- 7) マナーが悪い場合には退室を命じる場合もあります。出席時間として認められなくなります。
- 8) 校内での演習中はお互いを姓で呼び合い、丁寧な言葉遣いを習慣化してください。

## 7. 学科試験実施要領 (単位認定試験)

学科試験においては、以下の実施要項に従い、確実に単位を修得してください。

### 1) 学科試験の目的と心構え

学科試験 (単位認定試験) は学生の成績評価方法の一種として行われますが、国家試験の受験資格や卒業要件、大学編入や大学院進学の条件となるものです。したがって試験を厳粛なものとして重く受け止め、カンニングや不正行為のないようにしてください。試験中の不正行為やそれと疑われる行為があった場合は、単位の修得の取り消しや懲戒処分の対象になります。

### 2) 単位認定試験の注意事項

- ・ 座席は学籍番号順とする。
- ・ スマートフォンや携帯電話、ウェアラブル端末は電源を切り、試験前に、学籍番号が明記してある個別袋に入れ、教室後ろのロッカーの上に番号順に並べて置く。
- ・ テキストやノート、電源を切ったタブレットはカバンに入れ、教室後ろのロッカーに入れるか、更衣室のロッカーに入れる。教室後ろのロッカーの上には、個別袋に入れたスマートフォン・携帯電話・ウェアラブル端末以外の物を置かないこと。
- ・ 貴重品は、各自が責任持って管理する。
- ・ 机の中や横に物を置かないこと。
- ・ 机の上に落書きや走り書きがないことを確認し、あれば消す。
- ・ 机と机の間隔は均等にする。
- ・ 机の上には、鉛筆 (シャープペン) ・消しゴムのみを準備し、原則として、それ以外の物は置かないこと。
- ・ やむを得ず、ティッシュペーパー、膝掛け等を使用したい場合は、開始前迄に試験監督者に申請し許可を得る。
- ・ 試験開始前の私語は厳禁であり、学生は5分前には着席して待つようにする。
- ・ 試験問題や解答用紙が配布されたら、試験監督者の指示があるまでは触れてはいけない。
- ・ 試験開始の合図があったら、学籍番号と名前を記載する。
- ・ 試験問題等に不鮮明な個所がある場合は静かに挙手し、試験監督者に伝える。
- ・ 試験中に気分が悪くなった場合やトイレに行きたくなった場合は静かに挙手し、試験監督者の指示に従うこと。
- ・ 試験時間内の退出は認めない。(原則として45分間)
- ・ 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置く。
- ・ 試験監督者の指示に従って解答用紙と試験問題を全て回収する。
- ・ 試験監督者からの解散の合図があるまでは着席して待つ。

### 3) 遅刻者への対応

- ・ 教室への入室が時間割での試験開始予定時刻より 15 分(例:1 時限が試験の場合は、9 時 15 分 00 秒)を超えて遅れた場合は、試験を受けることができない。
- ・ 遅刻する場合には事前に学校へ連絡をする。

### 4) 追試験を受けようとする場合の対応

- ・ 成績評定に関する規程（追試験）に準ずる。
- ・ 追試験を受けようとする場合の連絡は、試験終了予定時刻（試験時間 45 分間）までに学校へ電話で連絡する。（終講試験の場合は、試験時間 90 分間）

### 5) 不正行為の禁止

- ・ 試験中の不正行為や試験中の不正行為と疑われる行為は、戒告や停学の懲戒処分に該当する行為となる。
- ・ カンニングは不正行為である。
- ・ 試験監督者の指示に従わない、または不正行為と疑われる行為（キョロキョロする、覗き込む等）が認められる場合は、不正行為とみなし試験は無効となる。
- ・ 試験用紙及び解答用紙の配布や回収時に私語があった場合は、不正行為とみなし試験は無効となる。
- ・ 携帯電話やスマートフォン、タブレット・ウェアラブル端末で試験問題の撮影をした場合は、不正行為とみなし試験は無効となる。

### 6) 課題レポート、出席レポート、出席/態度/レポートのレポート提出について

- ・ レポート、課題等の作成において代行（Web ページのコピー&ペーストや生成 AI を使用して作成したものをそのまま提出した場合等を含む）が行われていたと認められる場合には、剽窃行為とみなし単位の認定を行わない等の措置をとることがある。
- ・ 提出期限は、学科試験日時と同義であり、レポートが期日までに提出されない場合は、成績評定に関する規程細則(第 3 条)及び成績評定に関する規程（第 3～5 条）に準じた対応となる。
- ・ レポートの提出遅れに対して、やむを得ない理由がある場合には、評価は得点の 80%となり、やむを得ない理由がない場合には、評価は得点の 70%となる。

## カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

富士市立看護専門学校は、あたたかな感性でひとりひとりに寄り添い、自ら学び考え行動する実践者を育てるカリキュラムを編成し、実施する。

1. 6つの力（関係を築く力、考える力、実践する力、連携・協働する力、倫理に基づいて行動する力、自己研鑽をし続ける力）を身につけるために、ディプロマポリシーに沿って科目を設定し、カリキュラムツリーとして提示する。(別紙)
2. 基礎分野、専門基礎分野、専門分野で構成し、基礎分野や専門基礎分野は経験を踏まえて学びを発展できるように3年間を通して配置する。
3. 自己の課題に主体的に取り組み、学び続ける姿勢をもつことは専門職として重要であることから、アクティブラーニングやシミュレーション、ICTの活用を積極的に取り入れ、「自ら学ぶ」ことを支援するカリキュラムを編成する。
4. 多様化する医療ニーズに対応できるよう、状況に応じた看護を考える力を身につけるために、臨床判断につながる解剖生理や臨床判断を段階的に学ぶ演習を設定する。
5. 実践者を育てるカリキュラムとして、1年次早期より基礎看護技術の演習や臨地実習を配置し、準備と振り返りを充実させて、効果的に積み重ねていくことができるようにする。
6. 人間を生活者として総合的に理解し、多様な場で生活する人々への看護を学ぶために、病院実習より早期の1年次前期に、地域の人々の生活と健康生活支援を知る「地域看護実習」を行う。
7. 豊かな人間性を育み、感性を磨き、関係を築く力を育てるために、行事や教科外活動を行う。また、「心理学」、「人間関係論Ⅰ」、「人間関係論Ⅱ（エンカウンター・グループ研修）」、「文化と健康」、「運動と健康」といった科目を設定する。
8. 倫理に基づいて行動する力を養うために、1年次『看護職の倫理綱領』（「看護学概論」）、「生命倫理」、2年次「成人看護学Ⅲ（終末期看護、緩和ケア）」、「老年看護学Ⅱ（エンドオブライフケア）」、3年次「医療概論（医の倫理、患者の人権、終末期ケア）」など、3年間を通して配置する。また、3年間の臨地実習を通して、専門職業人としての責務を自覚し、倫理に基づいた看護を実践できるように実習目標を設定する。
9. 大規模地震が想定される地域に立つ看護学校として、災害看護や救命救急処置などの科目及び演習を設定する。



## 行事・教科外活動

		1年次	2年次	3年次	時期
行事・教科外活動	入学式	3	3	3	4月
	オリエンテーション	22			4月
	フレッシュマン研修	8			4月
	生活安全講話	2	2		4月
	防災訓練	3	3	3	4月
	健康診断	2	2	2	4月
	オープンキャンパス	4	4		6月
	学生祭	8	8	8	11月
	宣誓式	3	3		2月
	記念講演会	2	2		2月
	地域の病院を知る会	3			3月
	卒業式	3	3	3	3月
各学年小計		63	30	19	
合計（単位時間）		112			

## 学修支援時間

		1年次	2年次	3年次	時期
クラス運営	4月		2	2	4月
	7月	2	2	2	7月
	8月	2	2	2	8月
	12月	2	2	2	12月
	1月	2	2	2	1月
	3月	2	2	2	3月
その他	進級講話		2	2	4月
	入学式練習	1	2	2	4月
	宣誓式練習	2	12		2月
	卒業式練習	2	2	3	3月
	オープンキャンパスオリエンテーション	4	4		6月
	EGオリエンテーション		2		7月
	「看護の省察」発表聴講		4		10月
	学生祭準備	4	4	2	11月
	国家試験手続き			2	11月
	国家試験模擬試験・振り返り学習	16	54	300	4月～3月
	国試学習			150	4月～2月
	実習準備	12	40	46	4月～2月
	技術練習	12	32		4月～3月
臨地実習準備・まとめ	基礎Ⅰ実習準備・まとめ発表	8			9月～10月
	基礎Ⅱ実習準備・まとめ発表	8			12月
	経過別Ⅰオリエンテーション		2		6月
	領域全体オリエンテーション		2		1月
	経過別Ⅱオリエンテーション		2		1月
	急性期・周術期オリエンテーション		2		1月
	老年オリエンテーション		2		1月
	小児オリエンテーション		2		2月
	母性オリエンテーション		2		1月
	精神オリエンテーション		4		3月
	統合オリエンテーション			2	7月
	地域・在宅オリエンテーション		2		2月
各学年小計		79	190	521	
合計（時間）		790			

1年次 履修科目と時間数

2026年度

基礎分野									
科目	単元	単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	主な評価方法	試験月
国語(文章表現)		2	30	大学教員	外部	4月	100	終講試験	9月
ICTと情報モラル	ICTオリエンテーション	1	2	専任教員	内部	4月			
	ICTと情報モラル		28	大学講師	外部	4月	100	終講試験	9月
心理学		1	30	公認心理師	外部	5月	100	終講試験	10月
生物学		1	30	元大学教員	外部	4月	100	課題レポート	10月
生命倫理		1	15	緩和ケア担当医師	外部	10月	100	課題レポート	2月
<1年次計>		6	135						

専門基礎分野									
科目	単元	単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	主な評価方法	試験月
解剖生理・疾病論Ⅰ (総論、解剖見学、呼吸器系)	解剖生理学総論	1	7	病院医師	外部	4月	20	試験	6月
	呼吸器系 解剖生理		8	医師	外部	4月	25	試験	
	解剖見学		5	大学教員(2名) (専任教員)	外部 内部	8月	20	出席レポート	8月
	呼吸器系 疾病論		10	病院医師③	外部	9月	35	試験	10月
解剖生理・疾病論Ⅱ (循環器系、皮膚)	循環器系 解剖生理	1	12	病院医師①	外部	4月	40	試験	7月
	循環器系 疾病論		12	病院医師②	外部	6月	40	試験	
	皮膚 解剖生理・疾病論		6	病院医師③	外部	6月	20	試験	
解剖生理・疾病論Ⅲ (骨・筋系、眼)	骨・筋系 解剖生理・疾病論	1	24	病院医師①	外部	5月	80	試験	11月
	眼 解剖生理・疾病論		6	病院医師②	外部	11月	20	試験	
解剖生理・疾病論Ⅳ (消化器系、口腔)	消化器系 解剖生理・疾病論	1	26	病院医師①	外部	4月	80	試験	11月
	口腔 解剖生理・疾病論		4	病院医師②	外部	10月	20	試験	
解剖生理・疾病論Ⅴ (腎系、泌尿器系、女性生殖器系)	腎系 解剖生理・疾病論	1	14	病院医師①	外部	10月	50	試験	2月
	泌尿器系 解剖生理・疾病論		8	病院医師②	外部	1月	25	試験	
	女性生殖器系 解剖生理・疾病論		8	病院医師	外部	1月	25	試験	
解剖生理・疾病論Ⅵ (脳神経、耳鼻咽喉)	脳神経系 解剖生理・疾病論	1	22	病院医師①	外部	6月	70	試験	11月
	耳鼻咽喉系 解剖生理・疾病論		8	病院医師②	外部	10月	30	試験	
解剖生理・疾病論Ⅶ (代謝内分泌系、血液造血器系、免疫感染症)	代謝・内分泌系 解剖生理・疾病論	1	12(16)	病院医師①②	外部	11月	40	試験	2月
	血液・造血器系 解剖生理・疾病論		12	病院医師②	外部	1月	40	試験	
	免疫・感染症 解剖生理・疾病論		6	看護師	外部	1月	20	試験	
看護につながる解剖生理Ⅰ (呼吸器系、循環器系)	看護につながる解剖生理(呼吸器系)	1	8	専任教員①	内部	5月	50	試験	6月
	看護につながる解剖生理(循環器系)		7	専任教員②	内部	5月	50	試験	
看護につながる解剖生理Ⅱ (運動器系、消化器系)	看護につながる解剖生理(運動器系)	1	7	専任教員①	内部	10月	50	試験	12月
	看護につながる解剖生理(消化器系)		8	専任教員②	内部	10月	50	試験	
生化学		2	30	病院 臨床検査技師	外部	5月	100	試験	11月
微生物学		1	15	元大学教員	外部	9月	100	試験	12月
感染管理論		1	15	感染管理認定 看護師①②	外部	4月	100	試験	6月
病理学		1	15	病院医師	外部	4月	100	試験	7月
<1年次計>		14	315						

専門分野										
科目	単元	単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	主な評価方法	試験月	
基礎看護学	看護学概論	看護学概論①	1	20	専任教員	内部	4月	70	試験・課題	7月
		看護学概論②		10	看護師	外部	7月	30	課題レポート	9月
	看護過程展開の技術		1	10	専任教員①	内部	4月	100	ルーブリック	12月
				20	専任教員②	内部	9月			
	共通基本技術Ⅰ (コミュニケーション・環境調整・学習支援)	コミュニケーション技術	1	12	専任教員①	内部	4月	40	試験・演習	7月
		環境調整の技術		10	専任教員②	内部	4月	30	試験	
		学習支援		8			2月	30	演習・課題	2月
	共通基本技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)	フィジカルアセスメント	1	24	専任教員	内部	4月	50	試験・課題	10月
				6				50	技術試験	9月
	生活援助技術Ⅰ (活動休息・衣生活)	活動休息の援助技術	1	6	専任教員	内部	4月	35	技術試験	6月
		衣生活の援助技術		16				35	試験・課題	7月
				8				30	試験・課題	
	生活援助技術Ⅱ (食生活・排泄)	食生活の援助技術	1	12	専任教員	内部	4月	40	試験・課題	1月
		排泄の援助技術		18			9月	60	試験・課題	
	生活援助技術Ⅲ (清潔)	清潔の援助技術	1	24	専任教員	内部	4月	50	終講試験	9月
				6				50	技術試験	9月
	臨床看護方法論	健康障害をもつ対象者の理解と看護展開、臨床判断の基礎知識	1	10	専任教員①	内部	9月	30	終講試験	10月
				8	専任教員②	内部	9月	30	試験・課題	1月
				4	専任教員③	内部	10月	20	試験・課題	
				8	専任教員④	内部	10月	20	終講試験	
臨床判断演習Ⅰ	主要な症状を示す対象者の臨床判断演習	1	10	専任教員①	内部	1月	100	演習・課題 パフォーマンス評価 終講試験	3月	
			6	専任教員②	内部					
			14	専任教員③	内部					
地域・在宅看護論	地域・在宅看護論Ⅰ (地域で暮らす人々と家族の支援)	1	14	専任教員①	内部	1月	50	演習 ルーブリック	2月	
			8	保健師	外部	1月	20	試験	2月	
			4	専任教員②	内部	2月	10	出席レポート	2月	
			4	大学教員	外部	2月	20	課題レポート	2月	
成人看護学	成人看護学総論	成人看護学概論	1	22	専任教員	内部	8月	100	試験・課題	2月
		成人保健		8						
	成人看護学Ⅰ (回復期・リハビリテーション看護)	リハビリテーション医療① (言語療法・嚥下リハビリテーション)	1	2	病院言語聴覚士	外部	11月	5	出席レポート	11月
		リハビリテーション医療② (理学療法) (作業療法)		2	理学療法士	外部	11月	10	試験	1月
				2	作業療法士	外部	11月			
		各機能障害とリハビリテーション看護(脳神経系)(運動器系)(ストーマケア)		4	脳卒中リハ看護認定看護師	外部	11月	15	試験	
		4		専任教員	外部	1月	15	試験		
5	皮膚・排泄ケア認定看護師	外部	11月	15	試験					
回復期リハビリテーション看護概論・看護過程	11	専任教員	内部	10月	40	課題	1月			
老年看護学	老年看護学総論	1	30	専任教員	内部	7月	100	試験	2月	
小児看護学	小児看護学総論	1	30	専任教員	内部	5月	100	終講試験	2月	
母性看護学	母性看護学総論	母性看護学概論	1	13	専任教員	外部	11月	90	終講試験	2月
		女性の健康課題と支援		2	外部講師	外部	1月	10	出席レポート	1月
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	専任教員①②	内部	9月	100	実習評価	10月	
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90	専任教員①②	内部	12月	100	実習評価	12月	
	地域看護実習	2	90	専任教員①②	内部	7月	100	実習評価	7月	
<1年次計>			20	660						

総合計	
基礎分野	6単位 135時間
専門基礎分野	14単位 315時間
専門分野	20単位 660時間
<1年次計>	40単位 1110時間
行事・教科外活動＋学修支援時間	63＋79＝142時間
<1年次計>	1252時間

基礎分野										
科目	単元	単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	主な評価方法	試験月	
情報科学		1	15	大学教員	外部	9月	100	終講試験	12月	
人間関係論Ⅰ(人間関係の概説とカウンセリング)		1	15	公認心理師	外部	4月	100	課題レポート	6月	
人間関係論Ⅱ(エンカウンター・グループ研修)	エンカウンター・グループ研修	1	26	公認心理師(3名) 臨床心理士(1名)	外部	8月	優	出席レポート	8月	
	フォローアップ研修			公認心理師(2名)						外部
英語(医療英語・会話)		2	30	大学教員	外部	4月	100	小テスト 終講試験	10月	
社会学		1	15	大学教員	外部	9月	100	終講試験	12月	
運動と健康	障害者スポーツ	1	10	障害者スポーツ講師	外部	4月	30	出席/態度/レポート	6月	
	ヨガとマインドフルネス			ヨガ講師	外部	9月	40	出席/態度/レポート	10月	
				ヨガアシスタント						
卓球とスペシャルオリンピックス		10	スペシャルオリンピックス 認定コーチ	外部	10月	30	出席/態度/レポート	12月		
<2年次計>		7	135							

専門基礎分野										
科目	単元	単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	主な評価方法	試験月	
臨床栄養学		1	15	病院管理栄養士(2名)	外部	9月	100	試験	10月	
臨床薬理学		1	30	病院薬剤師	外部	4月	100	試験	11月	
公衆衛生	公衆衛生の概要と保健所の役割	1	8	保健所所長	外部	9月	50	試験	10月	
	公衆衛生看護			保健師	外部	9月	50			
<2年次計>		3	60							

専門分野											
科目	単元	単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	主な評価方法	試験月		
基礎看護学	療養援助技術Ⅰ(与薬)	与薬の技術	1	30	専任教員	内部	6月	100	試験	12月	
	療養援助技術Ⅱ(診療検査処置・救命救急・医療機器)	診察・検査・処置に伴う介助技術	1	6	専任教員①	内部	11月	30	試験	12月	
		救命救急処置の技術		14	専任教員②	内部	9月	50			
		消防指令センターの機能と役割		2	消防署職員①	外部	11月	10	資格取得	9月	
		BLS		4	消防署職員②	外部	9月	10			
医療機器の操作・管理	4	病院臨床工学技士(2名)	外部	12月	10	出席レポート	12月				
地域・在宅看護論	地域・在宅看護論Ⅱ(地域包括ケアと多職種連携)	地域包括ケアシステムの実践	1	4	保健師	外部	11月	10	出席レポート	11月	
		地域包括ケアシステムにおける在宅医療		4	医師	外部	7月	10	出席レポート	7月	
		退院支援の実践		4	退院支援看護師	外部	12月	20	試験	1月	
		多職種連携・協働の実践 専門職連携演習		18	専任教員 リハビリテーション教員① リハビリテーション教員②	内部 外部	11月	60	演習 ルーブリック	2月	
	地域・在宅看護概論		1	15	専任教員	内部	4月	100	試験	6月	
	在宅援助論Ⅰ(対象別在宅看護、在宅ケアシステム)	対象別在宅看護 訪問看護とケアマネジメント	1	15	訪問看護ステーション管理者・介護支援専門員	外部	6月	100	試験	9月	
	在宅援助論Ⅱ(在宅における生活援助、医療管理)	在宅における生活援助	1	14	訪問看護師①	外部	5月	50	試験	7月	
		在宅における医療管理 (在宅酸素療法)		14	訪問看護師②	外部	9月	50	試験	12月	
	在宅援助論Ⅲ(在宅看護実践プロセス)	在宅看護の実践プロセスと特徴 (在宅看護過程・訪問演習)	16	専任教員①	内部	9月	60	演習・課題	2月		
			在宅におけるヘルスアセスメント (臨床判断)	1	4	訪問看護 認定看護師	外部	12月	20	試験	1月
在宅における臨床判断シミュレーション演習			10	専任教員②	内部	1月	20	演習・課題	1月		
成人看護学	成人看護学Ⅱ(慢性期看護)	慢性期看護概論・看護過程	1	16	専任教員	内部	4月	50	試験・課題	11月	
		各機能障害と慢性期看護 (呼吸器系の障害)		4			10月	20			
		(免疫機構の障害)		2	看護師	外部	9月	10	試験		
		(腎機能障害)		8	病院看護師	外部	9月	20	試験		
	成人看護学Ⅲ(終末期看護・緩和ケア・がん看護)	終末期看護概論 (死後の処置)	1	10	専任教員	内部	9月	50	試験・課題	1月	
		緩和ケアとがん看護		2	納棺師	外部	10月				
	成人看護学Ⅳ(周術期看護)	緩和ケアとがん看護 (がん化学療法の看護)	12	緩和ケア認定看護師①② がん看護専門看護師	外部	11月	30	試験	7月		
			6	がん薬物療法看護 認定看護師	外部	11月	20	試験			
	成人看護学Ⅴ(急性期看護・クリティカルケア)	成人看護学Ⅳ(周術期看護)	周術期看護概論・手術前後の看護 と臨床判断演習	1	18	専任教員	内部	4月	60	試験・課題	7月
			手術中の看護		10	手術看護認定看護師	外部	4月	35	試験	
創傷治癒			2		皮膚・排泄ケア認定看護師	外部	5月	5	出席レポート	5月	
成人看護学Ⅴ(急性期看護・クリティカルケア)		急性期看護・クリティカルケア概論	4	救急看護認定看護師①	外部	9月	20	試験	12月		
			8	救急看護認定看護師②	外部	9月	35	試験			
集中治療室での看護	1	8	クリティカルケア 認定看護師	外部	10月	25	試験				
クリティカルケアにおける 臨床判断演習	10	専任教員 救急看護認定看護師 ①②③	内部 外部	11月	20	演習 課題レポート	12月				

専門分野										
科目	単元	単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	主な評価方法	試験月	
老年看護学	老年看護学Ⅰ (日常生活援助と予防)	日常生活援助と予防	1	26	専任教員	内部	4月	90	試験	9月
		高齢者の口腔ケア	1	4	病院歯科衛生士	外部	6月	10	出席レポート	6月
	老年看護学Ⅱ (老年期に特有な健康障害の看護)	治療を必要とする高齢者の看護	1	8	専任教員①	内部	7月	30	試験・課題	11月
		高齢者の経過別看護		6			10月	20	試験・課題	
		症候のアセスメントと看護		8	専任教員②	内部	6月	30	試験・課題	
		褥瘡のアセスメントと看護		4	皮膚・排泄ケア認定看護師	外部	10月	10	試験	
		エンドオブライフケア		4	緩和ケア認定看護師	外部	11月	10	出席レポート	11月
	老年看護学Ⅲ (認知機能障害のある高齢者の看護)	せん妄のある高齢者の特徴と看護	1	4	認知症認定看護師①	外部	12月	30	試験	1月
		認知症高齢者の看護		6	認知症認定看護師②③	外部	11月	40	試験	
		施設に入所している認知症高齢者の看護		5	専任教員	内部	12月	30	ルーブリック	12月
小児看護学	小児の疾病と治療	1	30	病院医師①②③	外部	4月	100	試験	11月	
	小児看護学Ⅰ (子どもと家族の看護)	1	15	専任教員	内部	4月	100	試験	6月	
	小児看護学Ⅱ (小児の疾患と看護、看護技術)	小児の事例展開と看護技術	1	20	専任教員	内部	9月	70	試験	12月
		小児の各疾患の看護		10	病院看護師	外部	6月	30	試験	
母性看護学	母性看護学Ⅰ (周産期の看護)	周産期の正常と異常	1	20	病院医師①②③④⑤⑥	外部	4月	70	試験	9月
		周産期の健康問題と看護		10	病院助産師	外部	6月	30	試験	
	母性看護学Ⅱ (妊娠期・分娩期の看護)	妊娠期の看護	1	10	助産所助産師	外部	4月	30	試験	9月
		妊娠期の看護演習		5	専任教員①	内部	5月	20	演習・課題	
	分娩期の看護	15	専任教員②	内部	5月	50	試験、演習・課題			
	母性看護学Ⅲ (産褥期・新生児期の看護)	産褥期の生理的変化と看護	1	20	専任教員①	内部	6月	60	試験、演習・課題	12月
新生児期の生理的変化と看護		10		専任教員②	内部	10月	40	試験、演習・課題		
精神看護学	精神看護学総論	精神看護学概論	1	20	看護師	外部	4月	70	試験	6月
		精神保健		4	大学教員①	外部	5月	30	試験	
				6	大学教員②	外部	5月			
	精神疾患・症状と治療	1	15	病院医師	外部	5月	100	試験	7月	
	精神看護学Ⅰ (病期別看護・社会復帰支援・対象理解)	病期別看護の特徴	1	10	病院看護師	外部	4月	40	試験	7月
		社会復帰を支援するケア		6	精神保健福祉士	外部	4月	20	試験	
		ケアの人間関係		14	専任教員	内部	4月	40	試験・課題	
	精神看護学Ⅱ (主な疾患の看護・看護過程)	主な疾患の看護①	1	20	専任教員①	内部	9月	70	試験・課題	2月
主な疾患の看護②		10		専任教員②	内部	12月	30	試験・課題		
看護の統合と実践	臨床判断演習Ⅱ (日常生活援助)	臨床判断演習 (クリティカルシンキング)	1	10	専任教員①	内部	4月	25	演習・課題	7月
		臨床判断演習 (日常生活援助)		10	専任教員②	内部	9月	25	演習・課題	10月
		OSCE		10	専任教員③	内部	10月	50	パフォーマンス評価	1月
	看護の統合Ⅰ(看護研究)	1	15	専任教員	内部	1月	100	ルーブリック	2月	
臨地実習	成人・老年経過別看護実習Ⅰ	2	90	専任教員① 専任教員②	内部	7月	100	実習評価	7月	
	成人・老年経過別看護実習Ⅱ	2	90	専任教員① 専任教員②	内部	2月	100	実習評価	3月	
<2年次計>		30	870							

総合計		
基礎分野	7単位	135時間
専門基礎分野	3単位	60時間
専門分野	30単位	870時間
<2年次計>	40単位	1065時間
行事・教科外活動+学修支援時間	30+192=222時間	
<2年次計>	1287時間	

3年次 履修科目と時間数

2026年度

基礎分野									
科目	単元	単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	主な評価方法	試験月
文化と健康	茶道	1	10	茶道講師(2名) (看護師)	外部	9月	30	出席/態度/ レポート	12月
	アロマテラピー		10	アロマセラピスト (看護師)	外部	5月	30	出席/態度/ レポート	7月
	手話		10	手話通訳士 外部講師	外部	11月	40	出席/態度/ レポート	12月
<3年次計>		1	30						

専門基礎分野									
科目	単元	単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	主な評価方法	試験月
医療概論	現代医学と先端医療の諸問題	1	7	病院医師	内部	7月	50	課題レポート	7月
	終末期ケア		2	医師①	外部	7月	10	出席レポート	7月
	医療倫理		6	医師②	外部	9月	40	課題レポート	10月
社会福祉		2	30	大学教員	外部	5月	100	終講試験	9月
関係法規		2	30	大学教員	外部	6月	100	試験	10月
<3年次計>		5	75						

専門分野									
科目	単元	単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	主な評価方法	試験月
看護の統合 と実践	看護の統合Ⅱ	1	8	認定看護管理者	外部	7月	30	試験	8月
			8	専任教員	内部	4月	30	試験	
			14	病院医療安全管理者	外部	5月	40	試験	
	看護の統合Ⅲ	1	8	大学教員①	内部	9月	30	課題レポート	10月
			4	大学教員②	外部	7月	10	出席レポート	7月
			16	専任教員	内部	6月	60	試験・課題	12月
	看護の統合Ⅳ	1	2	病院看護師	外部	10月	60	試験・課題	
			20	専任教員①	内部	4月	70	ルーブリック	10月
	臨地実習	看護の統合Ⅳ	1	10	専任教員② 専任教員③	内部	11月	30	課題
地域・在宅看護論実習				3	90	専任教員① 専任教員②	内部	4月	100
急性期・周術期看護実習		3	90	専任教員① 専任教員② 専任教員③	内部	4月	100	実習評価	4～11月
老年看護学実習		3	90	専任教員① 専任教員②	内部	4月	100	実習評価	4～11月
小児看護学実習		3	90	専任教員① 専任教員② 専任教員③	内部	4月	100	実習評価	4～11月
母性看護学実習		3	90	専任教員① 専任教員②	内部	4月	100	実習評価	4～11月
精神看護学実習		3	90	専任教員① 専任教員②	内部	4月	100	実習評価	4～11月
統合実習	3	90	専任教員① 専任教員②	内部	9月	100	実習評価	9～11月	
<3年次計>		24	720						

総合計	
基礎分野	1単位 30時間
専門基礎分野	5単位 75時間
専門分野	24単位 720時間
<3年次計>	30単位 825時間
行事・教科外活動+学修支援時間	19+521=540時間
<3年次計>	1365時間

## 本校における評価方法と内容

評価方法	内容
① 試験	筆記試験（授業時間数に含まれない）で評価する。
② 終講試験	終講筆記試験（授業時間数に含まれる）で評価する。
③ 技術試験	テクニカルスキル(手技)を中心に評価する。模擬事例の条件を考慮した実施を求める。ルーブリックを用いて評価する。
④ パフォーマンス評価	看護実践能力を総合的に評価する。模擬事例に対して必要な看護を考え、そのパフォーマンスから看護実践において必要とされる知識、技術、判断力、コミュニケーション能力、倫理的判断等について、ルーブリックを用いて評価する。
⑤ 出席レポート	全出席およびレポートの提出により評価する。
⑥ 課題レポート	レポートで評価するもの。レポート内容に応じて評価する。
⑦ 出席／態度／レポート	出席状況、受講姿勢（⑧）、レポート内容（⑥）の3つの観点から総合的に評価する。
⑧ 受講姿勢	授業（講義・演習・実習）に取り組む態度や行動について、主体性、積極性、協働性、反省的实践、倫理的行動、責任感等の要素を総合的に評価する。
⑨ 試験・演習（終講試験・演習）	筆記試験と演習への取り組み（⑧）を合わせて評価する。
⑩ 課題	提示された課題の内容と提出状況（期限、ルールや約束事項等の遵守）を加味して評価する。多様な課題形式や提出方法がある。
⑪ 試験・課題（終講試験・課題）	筆記試験と課題（⑩）を合わせて評価する。
⑫ 演習・課題	演習への取り組み（⑧）と課題（⑩）を合わせて評価する。
⑬ ポートフォリオ	学修過程や学修成果を体系的に整理し、証拠となる文書や資料の集合体を用いて評価する。
⑭ 小テスト	本時の授業内容や特定のテーマ等について、短時間でを行う確認テストを用いて評価する。
⑮ 資格取得	資格取得により評価する。
⑯ 実習評価	臨地実習において得た経験や学びをもとに、看護実践で必要とされる知識、技術、判断力、コミュニケーション能力、倫理的判断などの修得状況や受講姿勢（⑧）を総合的に評価する。
※ルーブリック	学修成果やパフォーマンスを評価するための基準や指標を明示した評価表。

# 基 礎 分 野

授業科目	国語（文章表現）	講師	大学教員		
開講時期	1年次	単位数	2単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護を学修していく上で基盤となる「国語」の力として、読む・分析する・表現する・論理的表現・要約する・伝達するなどの技術や方法を発展させ、それを支える知識や視座を深める。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「言葉」とは</li> <li>2. 国語の構造</li> <li>3. 文学的文章とは</li> <li>4. 論理的な表現と理解</li> <li>5. 文章表現に着目する</li> <li>6. 理解と表現</li> <li>7. 論理的思考力</li> <li>8. 言語表現と深い読み</li> <li>9. 言語理解と思考</li> <li>10. 文学作品の読解</li> <li>11. 深層的な読み</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料</li> <li>・その他、授業内で指示する</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験（論述試験）</li> </ul>					

授業科目	情報科学	講師	大学教員		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンを活用し看護に必要な情報の収集、処理の方法を身につける。</li> </ul> <hr/> <p><b>【内容】</b>（情報科学室パソコン使用での演習含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Excel の基本操作</li> <li>2. データの要約と集計</li> <li>3. クロス集計</li> <li>4. 統計グラフ</li> <li>5. データをまとめる</li> <li>6. 平均値の検定</li> <li>7. 公的統計の見方、使い方</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンス入門 Excel で学ぶ ―統計データの見方・使い方・集め方―</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験（情報科学室パソコン使用）</li> </ul>					

授業科目	ICT と情報モラル	講師	専任教員 2 時間 大学講師 28 時間		
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「情報とはなにか」を理解し、「いかし方」と「まもり方」を身につける。</li> <li>2. ICT を活用したコミュニケーションを理解し、看護の実践にいかす方法を身につける。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】 ICT オリエンテーション（担当：専任教員 2 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 富士市立看護専門学校の個人情報の取扱規程とソーシャルメディアに関する規程</li> <li>2. 学内 Wi-Fi の活用と iPad の基本的な設定・使用方法</li> <li>3. 学習支援システムの活用</li> <li>4. デジタル教科書・看護教育動画サイトの活用</li> <li>5. 情報科学室の利用について</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】 ICT と情報モラル（担当：大学講師 28 時間）</b></p> <p><b>【内容】（情報科学室パソコンを使用した演習含む）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Word を活用したレポート作成と情報倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) レポート作成の基本操作</li> <li>2) レポート作成における剽窃の防止と著作権の配慮</li> </ol> </li> <li>2. 生成 AI の基礎 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生成 AI の仕組みと適切な活用</li> <li>2) 生成 AI の限界と利用時の留意点</li> </ol> </li> <li>3. コンピュータリテラシーと情報セキュリティ</li> <li>4. ソーシャルメディアと情報発信のリテラシー</li> <li>5. 情報の認知と意思決定</li> <li>6. 情報化社会における情報リテラシー</li> <li>7. 医療情報の利用と情報倫理</li> <li>8. 患者の権利と個人情報の保護</li> <li>9. PowerPoint を活用したプレゼンテーション技術</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護情報学（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験（情報科学室パソコン使用）</li> </ul>					

授業科目	心理学	講師	公認心理師		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護者として対人援助に携わる際必要となる人間の行動の基礎に関する基本的知識を概観し、看護者として「人間」に対する関心と理解を深める。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学とは</li> <li>2. 知覚の心理</li> <li>3. 記憶の心理</li> <li>4. 思考・言語・コミュニケーション</li> <li>5. 学習</li> <li>6. 感情と動機づけ</li> <li>7. 性格とパーソナリティ</li> <li>8. 集団の心理</li> <li>9. 発達心理</li> <li>10. 心理臨床</li> <li>11. 看護と心理</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験</li> </ul>					

授業科目	生物学	講師	元大学教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生物」としての人体と「人」として生きている人間をつなげ人間の理解を深める。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物学入門 人間とはどういう生き物か？人間の特徴・動物の特徴</li> <li>2. 消化と吸収 食べることの意味</li> <li>3. 動物の生き方 細胞の活動</li> <li>4. 筋肉と神経</li> <li>5. 恒常性の維持 自律神経とホルモン</li> <li>6. ヒトが生きるしくみ</li> <li>7. 脳のはたらき</li> <li>8. 遺伝子とDNA－1－</li> <li>9. 遺伝子とDNA－2－</li> <li>10. 遺伝子と染色体</li> <li>11. 減数分裂のしくみ</li> <li>12. ヒトの発生</li> <li>13. 生物と環境</li> <li>14. 人間と環境</li> <li>15. 人類の未来と医療の問題</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物学（医学書院）</li> <li>・解剖生理学（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート</li> </ul>					

授業科目	人間関係論 I (人間関係の概説とカウンセリング)	講師	公認心理師		
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護者として人権の重要性を基盤に援助に携わる際必要となる「人間関係」に関する基本的な知識やカウンセリングの技法を概観する。</li> <li>・ 日常的な人間関係あるいは「生き方」を問う姿勢を培う。</li> </ul> <p><b>【内容】</b> (グループ演習含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間関係を学ぶ意義 私の間人間関係</li> <li>2. 人間関係の中の自己と他者</li> <li>3. 対人関係と役割</li> <li>4. 態度と対人行動</li> <li>5. 集団と個人</li> <li>6. コミュニケーション</li> <li>7. 心理療法とカウンセリング</li> <li>8. コーチング、アサーティブ・コミュニケーション</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間関係論 (医学書院)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題レポート</li> </ul>					

授業科目	人間関係論Ⅱ (エンカウンター・グループ研修)	講師	公認心理師、臨床心理士		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験学習を通し自己理解・他者理解・対人関係の理解を深め、豊かで安定した人間性を育む。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エンカウンター・グループ研修 (26 時間)       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心理療法の理論           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個人と集団</li> <li>(2) 交流分析・芸術療法等               <ul style="list-style-type: none"> <li>パーソナルスペース</li> <li>A L O H A で自分を振り返る</li> <li>あなたを認めるストローク</li> <li>プレイバックシアター                    等</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. フォローアップ研修 (4 時間)</li> </ol> <p>【使用テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師作成資料</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席レポート</li> </ul>					

授業科目	英語（医療英語・会話）	講師	大学教員		
開講時期	2年次	単位数	2単位	時間数	30時間
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の場での英語表現に慣れ、看護師として職務上必要な英語の基本的なスキルを身につける。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護系学生のための総合英語</li> <li>2. 医学専門用語</li> <li>3. 患者と看護師のコミュニケーション</li> <li>4. 診療場面の英会話</li> </ol> <p>【使用テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Vital Signs: Essential English for Healthcare Professionals（南雲堂）</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト（50%）、終講試験（50%）</li> </ul>					

授業科目	社会学	講師	大学教員		
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会」とは何か、「社会学」とはどのような学問か、を理解して社会的なモノの見方に触れることで、自分が生きるこの「社会」に関心を持てるようになる。</li> <li>・皆さんの身近で日々生じている出来事や現象に興味を持ち、「社会」との関わりを考えられるようになる。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「社会」とは 「社会学」とは 社会はただの人間の集まり？ それとも社会はモノのように存在している？ 「社会学」＝「社会科」？ 社会学は一体何を指している？</li> <li>2. 社会学の基本概念 「ヘイト・スピーチ」「ヘイト・クライム」の問題、あるいは皆さんにもっと身近な所では、「有名 Youtuber たちの登場」などの出来事や現象について、社会学で基本とされる考え方（≡概念、理論）をもとに分析する。</li> <li>3. 家族と社会学 「家族」という集団について、その変貌の過程をたどりながら、「社会」との関わりを意識しつつ分析する。</li> <li>4. 性別と社会学 近年における日本の恋愛アニメ、イケメンが登場する CM などの事例から、「男らしさ」「女らしさ」とは何か？などを考え、ジェンダーやセクシュアリティについて理解を深める。</li> <li>5. 文化と社会学 サブカルチャー、オタク文化、「萌え」などについて取り上げ、現代的な文化の在りようについて社会的視点から理解を深める。</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内におけるミニクイズ、到達度確認課題、及び試験（持ち込み可）で評価</li> </ul>					

授業科目	生命倫理	講師	緩和ケア担当医師		
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における生命倫理の諸問題を生命の尊厳や人間の尊厳という根本的な議論から理解し、医療現場の倫理的な問題に気づくことができる感性（倫理的感性）を高める。</li> <li>・対象者の尊厳や人権を守り、多様な価値観を尊重した行動をとることができる力を養う。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命倫理総論</li> <li>2. 自己決定権について</li> <li>3. 生の始まりをめぐる倫理問題 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人工妊娠中絶</li> <li>2) 生殖補助技術、生殖ビジネス</li> </ol> </li> <li>4. 生の終わりをめぐる倫理問題 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 安楽死・尊厳死</li> <li>2) 脳死と臓器移植</li> </ol> </li> <li>5. アドバンス・ケア・プランニング</li> <li>6 トリアージ</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護倫理（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート</li> </ul>					

授業科目	運動と健康	講師	ヨガ講師・ヨガアシスタント 10時間 障害者スポーツ講師 10時間 スペシャルオリンピックス認定コーチ 10時間		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を通して自分の体を知り不調を起こさないための調整方法を体験する。</li> <li>・障害者スポーツ、レクリエーションを通して運動の楽しさやその方法を体験する。</li> <li>・運動することで気分転換をはかる。</li> </ul>					
<p><b>【単元】 ヨガとマインドフルネス（担当：ヨガ講師・ヨガアシスタント 10時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヨガの成り立ち、ヨガとは</li> <li>2. ヨガの効果（様々な分野でのヨガの活用）</li> <li>3. 呼吸法</li> <li>4. マインドフルネス、瞑想体験</li> <li>5. 足ほぐし、足裏マッサージ</li> <li>6. アーユルヴェーダによる3つの体質と特徴</li> <li>7. ヨガポーズの実践</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師が準備する資料</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席/態度/レポート</li> </ul>					
<p><b>【単元】 障害者スポーツ（担当：障害者スポーツ講師 10時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者スポーツと脳の活性化の基本</li> <li>2. 障害者・高齢者向けスポーツの実践（ボッチャなど）</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師が準備する資料</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席/態度/レポート</li> </ul>					
<p><b>【単元】 卓球とスペシャルオリンピックス</b> (担当：スペシャルオリンピックス認定コーチ 10時間)</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卓球</li> <li>2. スペシャルオリンピックスと知的障害について</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師が準備する資料</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席/態度/レポート</li> </ul>					

授業科目	文化と健康	講師	茶道講師（看護師）	10 時間	
			アロマセラピスト（看護師）	10 時間	
			手話講師・外部講師	10 時間	
開講時期	3 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茶道を通しておもてなしの心や感性を磨く</li> <li>・ アロマセラピーと健康との関連を学ぶ</li> <li>・ 手話を通して聴覚障害とコミュニケーションについて学ぶ</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茶道（担当：茶道講師（看護師）2 名 10 時間）</li> </ul> <p><b>【内容】（在宅看護実習室での演習含む）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 茶道の心と歴史</li> <li>2. 茶道体験</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師が準備する資料</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席/態度/レポート</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アロマセラピー（担当：アロマセラピスト（看護師）10 時間）</li> </ul> <p><b>【内容】（看護実習室での演習含む）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アロマセラピーとは <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 精油について</li> <li>・ 精油が心身に伝わるしくみ等</li> </ul> </li> <li>2. アロマセラピーとリラクゼーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハンドマッサージの実技</li> <li>・ 香り体験 等</li> </ul> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師が準備する資料</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席/態度/レポート</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手話（担当：手話講師・外部講師 10 時間）</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手話とは</li> <li>2. 手話の実際</li> </ol>					

**【使用テキスト】**

- ・ 静岡発～「手話は言語」～手話学習テキスト（公益社団法人静岡県聴覚障害者協会）

**【評価方法】**

- ・ 出席/態度/レポート

專 門 基 礎 分 野

授業科目	解剖生理・疾病論 I (総論、解剖見学、呼吸器系)	講師	病院医師①	7 時間	
			大学教員	5 時間	
			病院医師②	8 時間	
			病院医師①	10 時間	
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

【目標】

1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。
2. 実際の解剖見学を通して、解剖生理学の理解を深めるとともに、生命に対する畏敬の念を養う。
3. 系統別疾患の病態、診断（検査）、治療について理解する。

【単元】解剖生理学総論（担当：病院医師① 7 時間）

【内容】

1. 人体の構造と機能を学ぶために
  - 1) 解剖学と生理学の歴史
2. 人体とは
3. 人体の素材（細胞の構造と機能）
  - 1) 細胞の構造
  - 2) 細胞を構成する物質とエネルギーの生成
  - 3) 細胞膜の構造と機能
  - 4) 細胞の増殖と染色体
  - 5) 分化した細胞がつくる組織
4. 構造と機能からみた人体
  - 1) 構造からみた人体
  - 2) 機能からみた人体
  - 3) 体液とホメオスタシス

【使用テキスト】

- ・解剖生理学（医学書院）

【評価方法】

- ・試験

【単元】解剖見学（担当：慈恵医大解剖学教室 大学教員（2名） 5 時間）

【内容】

1. 立体的な人体
2. 各臓器のつながり
3. 臓器の質感

【使用テキスト】

- ・解剖生理学（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 出席状況とレポート

---

**【単元】呼吸器系 解剖生理 （担当：病院医師② 8時間）**

**【内容】**

1. 呼吸器の構造

- 1) 上気道・下気道と肺・胸膜・縦隔

2. 呼吸器の生理

- 1) 内呼吸と外呼吸
- 2) 呼吸気量
- 3) ガス交換とガスの運搬
- 4) 呼吸運動の調節
- 3) 酸塩基平衡

**【使用テキスト】**

- ・ 解剖生理学（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 試験

---

**【単元】呼吸器系 疾病論 （担当：病院医師① 10時間）**

**【内容】**

1. 呼吸器系の疾患の病態、診断（検査）、治療

- 1) 炎症性疾患（気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎）
- 2) 気管支喘息
- 3) 慢性閉塞性肺疾患
- 4) 肺循環障害（肺高血圧、肺塞栓症）
- 5) 肺結核
- 6) 気胸
- 7) 肺腫瘍（肺癌、中皮腫）

**【使用テキスト】**

- ・ 呼吸器（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 試験

授業科目	解剖生理・疾病論Ⅱ (循環器系・皮膚)	講師	病院医師① 12時間 病院医師② 12時間 病院医師③ 6時間		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。</li> <li>2. 系統別疾患の病態、診断（検査）、治療について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】循環器系 解剖生理（担当：病院医師① 12時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心臓の構造と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心臓の構造</li> <li>2) 刺激伝道系</li> <li>3) 心機能の調節</li> </ol> </li> <li>2. 血管系の構造と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 動脈・静脈・毛細血管（門脈系・脳循環を含む）</li> <li>2) 血圧と血圧調整</li> <li>3) 肺循環と体循環、冠循環</li> <li>4) 末梢循環と調節</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖生理学（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】循環器系 疾病論（担当：病院医師② 12時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心臓の疾患の病態、診断（検査）、治療 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 先天性心疾患（心房中隔欠損症等）</li> <li>2) 虚血性心疾患（狭心症、急性冠症候群）</li> <li>3) 心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症）</li> <li>4) 心不全（急性心不全、慢性心不全）</li> <li>5) 心タンポナーデ</li> <li>6) 不整脈（上室性頻脈性不整脈等）</li> <li>7) 炎症性疾患（心筋炎等）</li> <li>8) 弁膜症（大動脈弁疾患）</li> </ol> </li> <li>2. 血管系の疾患の病態、診断（検査）、治療 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大動脈瘤、大動脈解離</li> <li>2) 閉塞性動脈硬化症</li> </ol> </li> </ol>					

- 3) 挫滅症候群
- 4) 下肢静脈瘤、深部静脈血栓症
3. 血圧異常の病態、診断（検査）、治療
  - 1) 動脈硬化症
  - 2) 本態性高血圧
  - 3) 二次性高血圧
  - 4) 起立性低血圧
4. ショックの病態、診断（検査）、治療
  - 1) 心原性ショック
  - 2) 出血性ショック
  - 3) 血流分布異常性ショック

**【使用テキスト】**

- ・ 循環器（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 試験

---

**【単元】皮膚 解剖生理・疾病論（担当：病院医師③ 6時間）**

**【内容】**

1. 皮膚の解剖生理
  - 1) 皮膚の構造と機能
  - 2) 体性感覚（刺激と感覚受容、表在感覚、深部感覚）
2. 皮膚の疾患の病態、診断（検査）、治療
  - 1) 湿疹、アトピー性皮膚炎、蜂窩織炎
  - 2) 接触性皮膚炎、蕁麻疹
  - 3) 帯状疱疹
  - 4) 疥癬
  - 5) 熱傷

**【使用テキスト】**

- ・ 解剖生理学（医学書院）
- ・ 皮膚（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 試験

授業科目	解剖生理・疾病論Ⅲ (骨・筋系、眼)	講師	病院医師① 24 時間 病院医師② 6 時間		
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。</li> <li>2. 系統別疾患の病態、診断（検査）、治療について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> 骨・筋系 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師① 24 時間）</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨の構造と機能       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 骨格とはどのようなものか</li> <li>2) 全身の骨の種類</li> <li>3) 軟骨</li> </ol> </li> <li>2. 骨格筋の構造と機能       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 骨格筋</li> <li>2) 筋収縮の機講</li> <li>3) 全身の筋の種類</li> </ol> </li> <li>3. 関節の構造       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 関節の構造と種類</li> </ol> </li> <li>4. 骨・関節の疾患の病態、診断（検査）、治療       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 骨折、脱臼、捻挫</li> <li>2) 骨粗鬆症</li> <li>3) 腫瘍（骨肉腫）</li> <li>4) 変形性関節症</li> <li>5) 腰痛症（椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症）</li> <li>6) 炎症性疾患（骨・骨髄炎、関節炎）</li> <li>7) 脊髄損傷</li> </ol> </li> <li>5. 筋肉・神経筋接合部の疾患の病態、診断（検査）、治療       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 筋ジストロフィー</li> <li>2) 重症筋無力症</li> </ol> </li> <li>6. 活動や行動が制限されることにより発生する状態       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 関節拘縮</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖生理学（医学書院）</li> <li>・運動器（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul>					

【单元】眼 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師② 6時間）

【内容】

1. 眼の解剖生理

- 1) 眼球と眼球付属物の構造
- 2) 視力と視野
- 3) 明暗覚と色覚
- 4) 眼球に関する反射
- 5) 視覚の伝道路
- 6) 眼球運動

2. 眼の疾患の病態、診断（検査）、治療

- 1) 白内障、緑内障
- 2) 網膜剥離、網膜症

【使用テキスト】

- ・解剖生理学（医学書院）
- ・眼（医学書院）

【評価方法】

- ・試験

授業科目	解剖生理・疾病論Ⅳ (消化器系、口腔)	講師	病院医師① 26時間 病院医師② 4時間		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。</li> <li>2. 系統別疾患の病態、診断（検査）、治療について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> 消化器系 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師① 26時間）</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 嚥下の機能       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 食道の構造と機能</li> </ol> </li> <li>2. 消化と吸収       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 胃の構造と機能</li> <li>2) 小腸の構造と機能</li> <li>3) 大腸の構造と機能</li> <li>4) 肝臓と胆道の構造と機能</li> <li>5) 膵臓の構造と機能</li> <li>6) 腹膜</li> <li>7) 消化管運動と反射</li> <li>8) 三大栄養素の消化と吸収・消化管ホルモン</li> </ol> </li> <li>3. 上部消化管の疾患の病態、診断（検査）、治療       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 炎症性疾患（逆流性食道炎、急性胃炎等）</li> <li>2) 潰瘍性疾患（胃潰瘍、十二指腸潰瘍）</li> <li>3) 腫瘍（食道癌、胃癌）</li> </ol> </li> <li>4. 下部消化管の疾患の病態、診断（検査）、治療       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）</li> <li>2) イレウス</li> <li>3) 腫瘍（大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌）</li> <li>4) 排便障害（便秘、下痢）</li> </ol> </li> <li>5. 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態、診断（検査）、治療       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 炎症性疾患（肝炎、胆嚢炎、膵炎）</li> <li>2) 肝硬変</li> <li>3) 腫瘍（肝癌、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌）</li> <li>4) 脂肪肝、アルコール性肝炎</li> <li>5) 胆石症</li> </ol> </li> <li>6. 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態、診断（検査）、治療       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 鼠経ヘルニア</li> <li>2) 腹膜炎</li> </ol> </li> </ol>					

3) 横隔膜ヘルニア、吃逆

7. 乳腺の疾患の病態、診断（検査）、治療

1) 乳癌

**【使用テキスト】**

- ・解剖生理学（医学書院）
- ・消化器（医学書院）
- ・女性生殖器（医学書院）

**【評価方法】**

- ・試験
- 

**【単元】** 口腔 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師② 4時間）

**【内容】**

1. 歯・口腔・唾液腺の構造と機能

1) 咀嚼と嚥下

2. 口腔の疾患の病態、診断（検査）、治療

1) 炎症性疾患（う歯、歯周病）

2) 腫瘍（舌癌）

**【使用テキスト】**

- ・解剖生理学（医学書院）
- ・歯・口腔（医学書院）

**【評価方法】**

- ・試験

授業科目	解剖生理・疾病論Ⅴ (腎系、泌尿器系、女性生殖器系)	講師	病院医師① 14時間 病院医師② 8時間 病院医師③ 8時間		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <p>1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。 2. 系統別疾患の病態、診断（検査）、治療について理解する。</p> <hr/> <p><b>【単元】腎系 解剖生理・疾病論（担当：病院医師① 14時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <p>1. 尿の生成</p> <p>1) 腎臓の機能</p> <p>2) クリアランスと糸球体濾過量</p> <p>3) 再吸収と分泌</p> <p>2. 体液とは、体液量の調節</p> <p>1) 抗利尿ホルモンの作用</p> <p>2) レニン・アンジオテンシン-アルドステロン系</p> <p>3) 電解質バランス</p> <p>4) 酸塩基平衡</p> <p>5) 浸透圧調節</p> <p>3. 腎系の疾患の病態、診断（検査）、治療</p> <p>1) 腎炎、慢性腎臓病</p> <p>2) 腎不全</p> <p>3) 腎の損傷・結石・腫瘍、先天異常</p> <p>4. 体液調節の疾患の病態、診断（検査）、治療</p> <p>1) 水・電解質の異常</p> <p>脱水、浮腫、低ナトリウム血症、高カリウム血症</p> <p>2) 酸塩基平衡の異常</p> <p>アシドーシス、アルカローシス</p> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖生理学（医学書院）</li> <li>・腎・泌尿器（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】泌尿器系 解剖生理・疾病論（担当：病院医師② 8時間）</b></p>					

**【内容】**

1. 排泄の機能

1) 排尿

①尿管・膀胱の構造と機能 ②尿道の構造と機能 ③排尿反射

2. 男性生殖器系の構造と機能

①精巣と精路 ②精子の形成 ③精巣上体、精管、精囊前立腺、陰茎

3. 泌尿器系(排泄機能)の病態、診断(検査)、治療

1) 炎症性疾患(腎盂腎炎、膀胱炎)

2) 腫瘍(腎癌、尿管癌、膀胱癌)

3) 腎・尿路結石

4) 排尿障害(過活動膀胱、腹圧性尿失禁等、夜尿症)

4. 男性生殖器系の疾患の病態、診断(検査)、治療

1) 男性生殖器の疾患

前立腺炎、前立腺肥大症、前立腺癌

**【使用テキスト】**

- ・解剖生理学(医学書院)
- ・腎・泌尿器(医学書院)

**【評価方法】**

- ・試験

---

**【単元】女性生殖器系 解剖生理・疾病論 (担当：病院医師③ 8時間)**

**【内容】**

1. 女性生殖器系の構造と機能

1) 卵巣、卵管、子宮、膣、外陰部、会陰

3) 性周期とホルモン

2. 女性生殖器系の疾患の病態、診断(検査)、治療

1) 子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫

2) 腫瘍(子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌)

3) 生殖機能障害(月経異常、更年期障害)

4) 性感染症

5) 不妊症、生殖補助医療

6) 出生前診断

**【使用テキスト】**

- ・解剖生理学(医学書院)
- ・女性生殖器(医学書院)

**【評価方法】**

- ・試験

授業科目	解剖生理・疾病論VI (脳神経、耳鼻咽喉)	講師	病院医師① 22時間 病院医師② 8時間
開講時期	1年次	単位数	1単位 時間数 30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。</li> <li>2. 系統別疾患の病態、診断（検査）、治療について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> 脳神経系 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師① 22時間）</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経細胞と神経組織 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 神経細胞と情報伝達</li> <li>2) 神経膠細胞</li> </ol> </li> <li>2. 中枢神経系の構造と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大脳</li> <li>2) 視床、視床下部</li> <li>3) 中脳、橋、延髄</li> <li>4) 小脳</li> <li>5) 脊髄</li> <li>6) 中枢神経系を保護する組織</li> <li>7) 姿勢反射</li> <li>8) 髄膜と脳室</li> <li>9) 脳脊髄液の循環</li> <li>10) 感覚と運動の伝道路</li> </ol> </li> <li>3. 末梢神経系 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 脳神経系</li> <li>2) 脊髄神経と神経叢</li> <li>3) 体性神経系</li> <li>4) 自律神経系</li> </ol> </li> <li>4. 中枢神経系の疾患の病態、診断（検査）、治療 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 脳血管障害（脳内出血、くも膜下出血脳梗塞、もやもや病）</li> <li>2) 頭蓋内圧亢進症</li> <li>3) 頭部外傷</li> <li>4) 腫瘍（脳腫瘍）</li> <li>5) 変性疾患（パーキンソン病、ALS）</li> <li>6) 脱髄疾患（多発性硬化症）</li> <li>7) 感染症（脳炎、髄膜炎）</li> <li>8) 機能性疾患（てんかん）</li> </ol> </li> <li>5. 末梢神経系の疾患の病態、診断（検査）、治療</li> </ol>			

- 1) ギランバレー症候群
- 2) 圧迫性神経障害、顔面神経麻痺（ベル麻痺）

**【使用テキスト】**

- ・解剖生理学（医学書院）
- ・脳神経（医学書院）

**【評価方法】**

- ・試験

---

**【単元】耳鼻咽喉系 解剖生理・疾病論（担当：病院医師② 8 時間）**

**【内容】**

1. 聴覚と平衡感覚
  - 1) 耳の構造（外耳・中耳・内耳の構造）
  - 2) 平衡器官の構造と平衡感覚
  - 3) 聴力
2. 嗅覚と味覚
  - 1) 嗅覚受容器の構造と嗅覚（臭上皮）
  - 2) 味覚受容器の構造と味覚（味蕾）
3. 聴覚・嗅覚・味覚障害の病態、診断（検査）、治療
  - 1) 難聴（音叉での検査）、メニエール病
  - 2) 嗅覚、味覚障害
  - 3) 花粉症（アレルギー性鼻炎）
4. 咽頭の疾患の病態、診断（検査）、治療
  - 1) 炎症性疾患（咽頭炎、扁桃炎）
  - 2) 腫瘍（咽頭癌）

**【使用テキスト】**

- ・解剖生理学（医学書院）
- ・耳鼻咽喉（医学書院）

**【評価方法】**

- ・試験

授業科目	解剖生理・疾病論Ⅶ (代謝・内分泌系、血液・ 造血器系、免疫・感染症)	講師	病院医師① 12(16)時間 病院医師② 12時間 看護師 6時間
開講時期	1年次	単位数	1単位 時間数 30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。</li> <li>2. 系統別疾患の病態、診断(検査)、治療について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> 代謝・内分泌系 解剖生理・疾病論 (担当: 病院医師① 12(16)時間)</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代謝       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 基礎代謝量</li> <li>2) 糖質・脂質・タンパク質・核酸の代謝</li> <li>3) ビタミン・ミネラル</li> </ol> </li> <li>2. 内分泌       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ホルモンの種類と作用機序</li> <li>2) ホルモンの調節</li> <li>3) フィードバック機構</li> <li>4) 内分泌器官の構造とホルモンの機能 視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、副甲状腺、膵島、副腎皮質、副腎髄質</li> </ol> </li> <li>3. 代謝異常の疾患の病態、診断(検査)、治療       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) メタボリックシンドローム、肥満症</li> <li>2) 糖尿病</li> <li>3) 脂質異常症</li> <li>4) 高尿酸血症、痛風</li> <li>5) ビタミン欠乏症</li> </ol> </li> <li>4. 内分泌系の疾患の病態、診断(検査)、治療       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 間脳、下垂体疾患</li> <li>2) 甲状腺疾患(亢進症、低下症、甲状腺炎)</li> <li>3) 副甲状腺(上皮小体)疾患</li> <li>4) 副腎皮質・髄質疾患</li> <li>5) 腫瘍(下垂体腫瘍・甲状腺癌)</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖生理学(医学書院)</li> <li>・内分泌・代謝(医学書院)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul>			

【単元】血液・造血器系 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師② 12 時間）

【内容】

1. 血液の成分と機能
  - 1) 血液の組成と造血のしくみ
2. 止血機構
  - 1) 凝固と繊維素溶解
3. 血液型
  - 1) 輸血に関する検査
  - 2) 不適合輸血とは
4. 血液造血器の疾患の病態、診断（検査）、治療
  - 1) 貧血（鉄欠乏性貧血、骨髄異型性症候群、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、二次性貧血）
  - 2) 出血性疾患（TTP, ITP, DIC）
  - 3) 白血球減少症
  - 4) 造血器の腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）

【使用テキスト】

- ・解剖生理学（医学書院）
- ・血液・造血器（医学書院）

【評価方法】

- ・試験

【単元】免疫系・感染症 解剖生理・疾病論 （担当：看護師 6 時間）

【内容】

1. 非特異的生体防御機構
  - 1) 生体表面や粘膜での防御機構
  - 2) 食細胞とサイトカイン
  - 3) 胸腺・脾臓・リンパ節
2. 特異的生体防御反応
  - 1) 免疫系の細胞
  - 2) 抗原と抗体
  - 3) 液性免疫
  - 4) 細胞性免疫
  - 5) 補体
  - 6) アレルギー反応
  - 7) 組織適合性抗原（HLA）
3. 免疫低下に関連する疾患の病態、診断（検査）、治療
  - 1) 敗血症と敗血症性ショック
  - 2) 免疫不全症と感染、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）

4. 自己免疫疾患の病態、診断（検査）、治療

- 1) 全身性エリテマトーデス
- 2) 関節リウマチ
- 3) シェーグレン症候群

5. アレルギー疾患の病態、診断（検査）、治療

- 1) アナフィラキシーショック

【使用テキスト】

- ・解剖生理学（医学書院）
- ・アレルギー・膠原病・感染症（医学書院）

【評価方法】

- ・試験

授業科目	看護につながる解剖生理 I (呼吸器系、循環器系)	講師	専任教員① (呼吸器系) 8 時間 専任教員② (循環器系) 7 時間		
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学の観点から人体の構造と機能について系統立てて理解する。</li> <li>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うため、生命の根幹をなす呼吸器系・循環器系の構造と機能について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> 看護につながる解剖生理 (呼吸器系) (担当: 専任教員① 8 時間)</p> <p><b>【内容】</b> (グループワーク・コンセプトマップ含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器系の解剖生理       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 肺の位置と構造           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 胸腔内と肺の位置</li> <li>(2) 肺のつくり</li> </ol> </li> <li>2) 呼吸器の機能           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 呼吸の仕事とガス交換</li> <li>(2) 内呼吸と外呼吸</li> <li>(3) 呼吸のメカニズムと換気の仕組み</li> <li>(4) 呼吸のコントロール</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖生理学 (医学書院)</li> <li>・呼吸器 (医学書院)</li> <li>・イラストでまなぶ生理学 (医学書院)</li> <li>・看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】</b> 看護につながる解剖生理 (循環器系) (担当: 専任教員② 7 時間)</p> <p><b>【内容】</b> (コンセプトマップ含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 循環器系の解剖生理       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心臓の位置と構造           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 胸腔内と心臓の位置</li> <li>(2) 心臓のつくり</li> <li>(3) 心臓の興奮</li> </ol> </li> <li>2) 心臓の機能           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 心臓の仕事</li> <li>(2) 心周期と心音</li> <li>(3) 体循環と肺循環</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>					

### 3) 血管系の構造と機能

(1) 動脈と静脈

(2) 最高血圧と最低血圧

(3) 毛細血管とリンパ管

#### 【使用テキスト】

- ・解剖生理学（医学書院）
- ・循環器（医学書院）
- ・イラストでまなぶ生理学（医学書院）

#### 【評価方法】

- ・試験

授業科目	看護につながる解剖生理Ⅱ (運動器系、消化器系)	講師	専任教員①(運動器系) 7時間 専任教員②(消化器系) 8時間		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学の観点から人体の構造と機能について系統立てて理解できる。</li> <li>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うため、運動器系・消化器系の構造と機能について理解できる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> 看護につながる解剖生理(運動器系) (担当: 専任教員① 7時間)</p> <p><b>【内容】</b> (コンセプトマップ含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動器系の解剖生理       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 位置と構造と機能           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 骨格</li> <li>(2) 関節</li> <li>(3) 骨格筋</li> </ol> </li> <li>2) 運動の仕組み           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 身体の動きの原則</li> <li>(2) 体幹</li> <li>(3) 上肢</li> <li>(4) 下肢</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖生理学(医学書院)</li> <li>・運動器(医学書院)</li> <li>・イラストでまなぶ生理学(医学書院)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】</b> 看護につながる解剖生理(消化器系) (担当: 専任教員② 8時間)</p> <p><b>【内容】</b> (グループワーク・コンセプトマップ含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化器系の解剖生理       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 位置と構造と機能           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 食道、胃、小腸、大腸</li> <li>(2) 肝臓、胆嚢、膵臓</li> </ol> </li> <li>2) 消化と吸収、排泄の仕組み</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖生理学(医学書院)</li> <li>・消化器(医学書院)</li> <li>・イラストでまなぶ生理学(医学書院)</li> </ul>					

**【評価方法】**

- ・ 試験

授業科目	生化学	講師	病院臨床検査技師		
開講時期	1 年次	単位数	2 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人体の構成成分である化学物質の分布、性状、代謝機能について理解する。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体を構成する物質とその代謝       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生体を構成する元素・分子</li> <li>2) 細胞の構造と機能</li> </ol> </li> <li>2. 代謝の基礎と酵素・補酵素       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 三大栄養素の代謝の概要</li> <li>2) 酵素</li> <li>3) ビタミン</li> </ol> </li> <li>3. 糖質代謝</li> <li>4. 脂質代謝</li> <li>5. タンパク質代謝       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) タンパク質の消化と吸収</li> <li>2) アミノ酸の吸収・分解</li> </ol> </li> <li>6. ポルフィリン代謝と異物代謝       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ポルフィリン</li> <li>2) 生体異物代謝</li> <li>3) 活性酸素とその除去反応</li> </ol> </li> <li>7. 遺伝情報とその発現</li> <li>8. 細胞のシグナル伝達とがん       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) シグナル伝達</li> <li>2) 内分泌の生化学的基盤</li> <li>3) がん</li> </ol> </li> <li>9. 臨床検査       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 総論（一般検査・血液検査・生化学検査）</li> <li>2) 免疫学（細菌検査）</li> <li>3) 疾患と検査値</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生化学（医学書院）</li> <li>・ 検査値早わかりガイド 第3版（サイオ出版）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul>					

授業科目	臨床栄養学	講師	病院管理栄養士		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養サポートを行うための基礎的知識や食事療法の基本を理解する。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養素の種類とはたらき</li> <li>2. 食事摂取基準</li> <li>3. ライフステージと栄養</li> <li>4. チームで取り組む栄養管理</li> <li>5. 病院食</li> <li>6. 疾患・症状別食事療法</li> <li>7. 調理実習 1回 (調理実習室での実習)</li> </ol> <p>【使用テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養学 (医学書院)</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul>					

授業科目	微生物学	講師	元大学教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物の人体に及ぼす影響及びその対応について理解する。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物とは</li> <li>2. 細菌の性質</li> <li>3. ウイルスの性質</li> <li>4. 微生物の感染と感染症</li> <li>5. 免疫のしくみ</li> <li>6. 消毒、治療</li> <li>7. 主な病原微生物、細菌と真菌</li> <li>8. 主な病原微生物、ウイルス</li> </ol> <p>【使用テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物学（医学書院）</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul>					

授業科目	感染管理論	講師	感染管理認定看護師①②		15 時間
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染成立の条件および院内感染（医療関連感染）の基本を知り、医療者が感染防止のための実践を行うことの重要性を理解する。</li> <li>2. 感染防止の技術について学び、原理原則を理解し正しく実践できる。</li> </ol> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染症概論（担当：感染管理認定看護師①） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染と感染症</li> <li>2) 感染成立の条件</li> <li>3) 院内感染の防止</li> <li>4) 感染症の現状と対策 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 感染症の変遷</li> <li>(2) 感染症の現状と問題点</li> <li>(3) 感染症への対策</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. 院内感染の対応と予防（担当：感染管理認定看護師①） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 標準予防策</li> <li>2) 感染経路別予防策</li> <li>3) 手指衛生のタイミング</li> <li>4) 個人防護具の選択、着脱</li> <li>5) 感染性廃棄物の取り扱い</li> </ol> </li> <li>3. 感染防止の技術（演習①）（担当：感染管理認定看護師①） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 標準予防策に基づく手洗い</li> <li>2) 手指衛生のタイミング</li> <li>3) 個人防護具の選択、着脱</li> <li>4) 感染性廃棄物の取り扱い</li> </ol> </li> <li>4. 感染とその防御①（担当：感染管理認定看護師②） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 微生物感染の機構 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 細菌感染</li> <li>(2) 真菌感染</li> <li>(3) 原虫感染</li> <li>(4) ウイルス感染の機構</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>5. 感染とその防御②（担当：感染管理認定看護師②） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染に対する生体防御機構</li> <li>2) 感染症の検査と診断</li> <li>3) 感染症の治療</li> <li>4) 医療器材の洗浄・消毒</li> </ol> </li> </ol>					

6. 洗浄・消毒・滅菌、無菌操作の基礎知識（演習②）（担当：感染管理認定看護師②）

- 1) 滅菌手袋の着脱
- 2) 滅菌物の取り扱い
- 3) 鑷子・滅菌ガーゼ・綿球の取り扱い

7. 感染防止の技術（担当：感染管理認定看護師①）

- 1) 援助場面に応じた感染防止の技術

【使用テキスト】

- ・微生物学（医学書院）
- ・基礎看護技術 I（医学書院）
- ・看護がみえる vol.1 基礎看護技術（メディックメディア）

【評価方法】

- ・試験

授業科目	臨床薬理学	講師	病院薬剤師		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な薬物の薬理作用の種類・作用機序・人体への影響及び薬物の管理について理解する。</li> </ul> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬が作用するしくみ</li> <li>2. 自律神経</li> <li>3. アレルギー</li> <li>4. 炎症</li> <li>5. 血液</li> <li>6. 輸液</li> <li>7. 循環器</li> <li>8. 呼吸器</li> <li>9. 消化器</li> <li>10. 代謝</li> <li>11. 内分泌</li> <li>12. 中枢神経系</li> <li>13. 麻酔、麻薬</li> <li>14. 抗菌薬</li> <li>15. 抗癌薬</li> <li>16. 薬の処方と管理</li> </ol> <p>【使用テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストで学ぶ薬理学（医学書院）</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul>					

授業科目	病理学	講師	病院医師		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の成り立ちや、身体内での病的変化について理解する。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病理学とは       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病気の原因</li> </ol> </li> <li>2. 細胞の障害       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 萎縮、変性、肥大</li> <li>2) 壊死とアポトーシス</li> <li>3) 創傷と治癒</li> </ol> </li> <li>3. 生体の障害       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 循環器障害、臓器不全</li> <li>2) 炎症、損傷</li> <li>3) 免疫異常、アレルギー</li> <li>4) 内分泌、代謝障害</li> <li>5) 廃用症候群・老年症候群</li> <li>6) 遺伝子異常と先天異常</li> <li>7) 腫瘍</li> <li>8) 中毒、放射線障害</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病理学（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul>					

授業科目	医療概論	講師	病院医師 7 時間 医師① 2 時間 医師② 6 時間		
開講時期	3 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代医療（現代医学と先端医療技術）の動向と諸問題（医療倫理を含む）を知る。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代医学と先端医療技術の動向と諸問題（担当：病院医師 7 時間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医の倫理と患者の権利、臨床医学研究</li> <li>2) 遺伝子・ゲノム医療、再生医療、人工臓器等</li> <li>3) 補完代替療法・全人的統合医療</li> </ol> </li> <li>2. 終末期ケア（担当：医師① 2 時間）</li> <li>3. 医療倫理（担当：医師② 6 時間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療現場の倫理</li> <li>2) 医療倫理の最近の動向</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生のための医療概論（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題レポート（病院医師、医師②）</li> <li>・ 出席レポート（医師①）</li> </ul>					

授業科目	公衆衛生	講師	保健所所長 8 時間 保健師 7 時間		
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公衆衛生に関する統計情報及び健康な社会を実現するための個人や集団の組織的な保健活動を理解する。</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】 公衆衛生の概要と保健所の役割（担当：保健所所長 8 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生のエッセンス</li> <li>2. 公衆衛生の活動対象</li> <li>3. 公衆衛生のしくみ</li> <li>4. 集団の健康をとらえるための手法—疫学・保健統計</li> <li>5. 環境と健康</li> <li>6. 感染症とその予防対策</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公衆衛生（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】 公衆衛生看護（担当：保健師 7 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域保健活動（ヘルスサービスの構造）</li> <li>2. 学校保健</li> <li>3. 難病対策</li> <li>4. 健康教育とヘルスプロモーション</li> <li>5. 産業保健</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わかりやすい公衆衛生学（ヌーヴェルヒロカワ）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul>					

授業科目	社会福祉	講師	大学教員		
開講時期	3 年次	単位数	2 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉の歴史と現状及社会保障・社会福祉と公衆衛生の関係について理解する。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉と社会保障制度 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会福祉とは</li> <li>2) 社会保障とは</li> <li>3) 社会福祉と社会保障の関連</li> <li>4) 社会保険制度</li> </ol> </li> <li>2. 医療保険制度 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 定義</li> <li>2) 沿革</li> <li>3) 概要</li> <li>4) 関係各制度</li> </ol> </li> <li>3. 介護保険制度 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 沿革、目的、理念</li> <li>2) 内容</li> <li>3) 申請から利用料まで</li> <li>4) 高額介護サービス費、苦情申し立て</li> </ol> </li> <li>4. 年金保険制度 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 内容</li> <li>2) 保険料、保険金</li> <li>3) 障害・遺族年金</li> </ol> </li> <li>5. 労働保険制度 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 雇用保険制度</li> <li>2) 労災保険制度</li> </ol> </li> <li>6. 高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 定義</li> <li>2) 理念</li> <li>3) 施策</li> <li>4) 関連施策</li> </ol> </li> <li>7. 生活保護制度</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会保障・社会福祉（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終講試験</li> </ul>					

授業科目	関係法規	講師	大学教員		
開講時期	3年次	単位数	2単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法の基礎及び衛生法規に関する知識を修得し、保健師助産師看護師法を中心に医療制度の中の看護職の位置と役割を理解する。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>概論（保健医療と法） <ol style="list-style-type: none"> <li>保健師助産師看護師法</li> <li>医療関係法規</li> <li>看護職員の確保と関係法規</li> <li>医療過誤と判例</li> </ol> </li> <li>各論（関係法規の実際） <ol style="list-style-type: none"> <li>薬務法・環境法</li> <li>保健及び予防衛生法</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護関係法令（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験</li> </ul>					

# 專 門 分 野

基礎看護学

地域・在宅看護論

成人看護学

授業科目	看護学概論	講師	専任教員 20 時間 看護師 10 時間		
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の基本となる概念を理解する。</li> <li>2. 看護の対象である人間を総合的に捉え、生活者としての意味を理解する。</li> <li>3. 健康の概念について理解する。</li> <li>4. 看護倫理について考え、看護職者に必要な態度を養う。</li> <li>5. 保健医療福祉システムを理解し、チームにおける看護師の役割を理解する。</li> <li>6. 看護の提供について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】看護学概論①（担当：専任教員 20 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とは       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「看護とは？」看護の本質を考え続けること</li> <li>2) 基礎看護技術の導入（看護技術の基本原則、看護技術の特徴）</li> </ol> </li> <li>2. 看護の定義（法的側面と職能団体という側面から）       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健師助産師看護師法での看護師の定義</li> <li>2) ICN、日本看護協会など職能団体の定義</li> <li>3) 看護のメタパラダイム（概念枠組み） 人間、環境、健康、看護</li> </ol> </li> <li>3. 看護の定義（看護理論）       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ナイチンゲール、ヘンダーソン</li> <li>2) ウィーデンバック、ベナー、オレム、ロイ、トラベルビー、ペプロウ、オーランド</li> <li>3) ケアとキュア、ケアとケアリング（レイニンガー、ワトソン）</li> </ol> </li> <li>4. 看護実践と質の保証       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 個別的看護（安全性・安楽性、自立の促進、倫理的配慮、プライバシーの保護）</li> <li>2) 看護過程、クリティカルシンキング、臨床判断、EBN、看護研究</li> </ol> </li> <li>5. 看護における倫理       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療をめぐる倫理（患者の権利とインフォームドコンセント、終末期における意思決定支援）</li> <li>2) 医療倫理 4 原則、看護倫理 5 原則</li> <li>3) 看護職の倫理綱領</li> </ol> </li> <li>6. 対象の理解       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活する人間を身体的・精神的・社会的側面と成長・発達・加齢から総合的に理解する</li> <li>2) ホメオスタシス、ストレス、コーピング行動</li> <li>3) マズローのニード論、危機理論</li> <li>4) ライフサイクル、エリクソン、ハヴィガースト、各期の特徴、生活の 4 側面</li> </ol> </li> </ol>					

## 7. 健康とは

- 1) 健康の定義
- 2) 権利としての健康
- 3) ICF の生活機能モデル
- 4) 疾患・障害の予防（1次予防から3次予防）

### 【使用テキスト】

- ・看護学概論（医学書院）
- ・看護覚え書き（現代社）
- ・よくわかる看護職の倫理綱領（照林社）
- ・看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）

### 【評価方法】

- ・試験・課題

---

## 【単元】看護学概論②（担当：看護師 10時間）

### 【内容】

1. 看護の提供者
  - 1) 職業としての看護
  - 2) 看護職の資格と養成
  - 3) 看護職者の就業と継続教育
  - 4) 看護職の養成制度
2. 看護提供のしくみ
  - 1) 看護サービス提供のしくみと管理
  - 2) 看護をめぐる制度と政策
3. 広がる看護の活動領域
  - 1) 国際化と看護
  - 2) 災害時の看護

### 【使用テキスト】

- ・看護学概論（医学書院）
- ・看護覚え書き（現代社）
- ・よくわかる看護職の倫理綱領（照林社）
- ・看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）

### 【評価方法】

- ・課題レポート

授業科目	看護過程展開の技術	講師	専任教員① 10 時間 専任教員② 20 時間		
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。</li> <li>2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクションという看護過程の基盤となる考え方を理解する。</li> <li>3. アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価という看護過程にについて、その基本的な考え方と実際を理解する。</li> <li>4. 事例をもとに、展開方法を理解し活用できる。</li> <li>5. 看護記録の目的と留意点、その構成について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護記録 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護記録とは</li> <li>2) 記録・管理における留意点</li> <li>3) 看護記録の構成</li> </ol> </li> <li>2. 看護過程とは <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護過程の 5 つの構成要素</li> <li>2) 5 つの構成要素の関係性</li> <li>3) 看護過程を用いる利点</li> </ol> </li> <li>3. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 問題解決過程</li> <li>2) クリティカルシンキング</li> <li>3) リフレクション</li> </ol> </li> <li>4. 看護過程の各段階 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) アセスメント(情報収集と分析)</li> <li>2) 看護問題の明確化</li> <li>3) 看護計画</li> <li>4) 実施</li> <li>5) 評価</li> <li>6) 関連図</li> <li>7) 看護サマリー</li> </ol> </li> <li>5. 事例をもとに看護過程を展開</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護技術 I (医学書院)</li> <li>・看護がみえる Vol.5 対象の理解 I (メディックメディア)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック</li> </ul>					

授業科目	共通基本技術 I (コミュニケーション・ 環境調整・学習支援)	講師	専任教員① 12 時間 専任教員② 10 時間 専任教員③ 8 時間		
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解でき、適切に活用できる。</li> <li>2. 生活環境が及ぼす影響を理解し、患者にとって適切な環境を整えることができる。</li> <li>3. 看護における教育的役割や健康教育の目的、健康教育・指導の過程を理解し、それらを実施、評価する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> コミュニケーション技術 (担当：専任教員① 12 時間)</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの意義と目的 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーションとは</li> <li>2) 看護・医療におけるコミュニケーション(ロールプレイング)</li> </ol> </li> <li>2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーション手段</li> <li>2) 構成要素と成立過程</li> <li>3) ミスコミュニケーション</li> <li>4) 看護専門職として備えるべきコミュニケーション能力</li> </ol> </li> <li>3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 接近的コミュニケーションの原理</li> <li>2) 接近的行動の前提となる基本的な態度</li> <li>3) 接近的行動と非接近的行動</li> <li>4) 接近的コミュニケーションを成立させる技術</li> </ol> </li> <li>4. 効果的なコミュニケーションの実践 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 傾聴の技術 (ロールプレイング)</li> <li>2) 情報収集の技術</li> <li>3) 説明の技術</li> <li>4) アサーティブネス</li> <li>5) オンラインコミュニケーションのポイント</li> </ol> </li> <li>5. コミュニケーション障害への対応 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーションに障害がある人の特徴</li> <li>2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能</li> <li>3) コミュニケーション障害がある人への対応 (ロールプレイング)</li> </ol> </li> </ol>					

**【使用テキスト】**

- ・ 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）
- ・ 人間関係論（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 試験・演習、課題レポート、受講姿勢
- 

**【単元】環境調整の技術（担当：専任教員② 10時間）**

**【内容】**

1. 環境とは
  - 1) 人間の生活と環境
  - 2) 環境調整の意義
  - 3) 病人の生活環境の条件
  - 4) 快適な病室の環境条件
  - 5) 病室環境のアセスメント
2. 必要な援助、看護師の役割、援助の実際
  - 1) ベッド周りの環境整備に関するトラブル
  - 2) 病床環境に対する看護の役割
3. 病床の整備
  - 1) ベッドの種類と構造
  - 2) リネンの種類と取り扱い
  - 3) 基本的なベッドメイキング
  - 4) 臥床患者のリネン交換
4. 演習（8時間を含む）
  - 1) 快適・安全な療養環境の整備
  - 2) 基本的なベッドメイキング
  - 3) 臥床患者のリネン交換

**【使用テキスト】**

- ・ 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）
- ・ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
- ・ 看護がみえる vol.1 基礎看護技術（メディックメディア）

**【評価方法】**

- ・ 試験、受講姿勢
- 

**【単元】学習支援（担当：専任教員③ 8時間）**

**【内容】**

1. 学習支援の対象者と看護の役割
  - 1) 学習支援の対象者とそのニーズ
  - 2) 看護の役割

## 2. 学習の基礎知識

- 1) 学習の定義
- 2) 学習に影響する因子

## 3. 学習支援の基礎知識

- 1) 学習支援の基本的な考え方
- 2) 対象者の価値観や生活の理解と尊重
- 3) 対象者の特性の理解と尊重
- 4) 自己効力感を高めるためのかわり

## 4. 学習支援の技術

- 1) 学習支援の進め方
- 2) 学習支援の方法
- 3) 教材

## 5. 演習（6時間を含む）

- 1) 個人を対象とした生活指導の実施と評価（ロールプレイング）

### 【使用テキスト】

- ・基礎看護技術 I（医学書院）

### 【評価方法】

- ・演習・課題、受講姿勢

授業科目	共通基本技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)	講師	専任教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルスアセスメントの必要性和目的が理解できる。</li> <li>2. 観察の重要性和方法を理解する。</li> <li>3. バイタルサインの重要性和測定の意義を理解する。</li> <li>4. バイタルサイン測定と観察に必要な基礎知識を理解する。</li> <li>5. バイタルサインに影響する諸因子を調整し、正確に測定し、値を評価する。</li> <li>6. 観察・報告の意義と方法について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> フィジカルアセスメント</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルスアセスメントとは       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ヘルスアセスメントの意義と目的           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) フィジカルアセスメント</li> <li>(2) フィジカルイグザミネーション</li> </ol> </li> <li>2) 観察とは</li> <li>3) 全体の概観           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) フィジカルアセスメントに必要な技術（問診、視診、触診、聴診、打診）</li> <li>(2) 全身状態・全体印象の把握</li> </ol> </li> <li>4) 看護過程における情報収集</li> <li>5) フィジカルアセスメントの重要性（事例）</li> </ol> </li> <li>2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 問診（面接）の技術</li> <li>2) 健康歴聴取の目的と実際</li> <li>3) セルフケア能力のアセスメント</li> </ol> </li> <li>3. バイタルサインとは       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) バイタルサイン測定の意義</li> </ol> </li> <li>4. 体温維持に関する基礎知識       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 体温の変動要因、正常と異常</li> <li>2) 体温の測定の実際とアセスメント</li> </ol> </li> <li>5. 脈拍に関する基礎知識       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 脈拍の変動要因、正常と異常</li> <li>2) 脈拍の測定の実際とアセスメント</li> </ol> </li> <li>6. 呼吸に関する基礎知識       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 呼吸の変動要因、正常と異常</li> <li>2) 呼吸の測定の実際とアセスメント</li> </ol> </li> </ol>					

- 3) 呼吸音の聴診
- 4) 酸素飽和度について
7. 血圧に関する基礎知識
  - 1) 血圧の変動要因、正常と異常
  - 2) 血圧の測定の実際とアセスメント
8. 意識に関する基礎知識
  - 1) 意識の観察の実際 ジャパンコーマスケール (JCS)・グラスゴーコーマスケール (GCS)
9. 腹部に関する基礎知識
  - 1) 腹部全体のアセスメント
  - 2) 腹部に特徴的な症状・徴候
10. 報告に関する基礎知識
  - 1) 報告の意義と方法 S B A R
11. 演習 (20 時間を含む)
  - 1) バイタルサインを測定し、観察・アセスメントした内容を報告する
    - (1) 体温 (2) 脈拍 (3) 呼吸 (4) 血圧 (5) 酸素飽和度
    - (6) 問診 (7) 視診 (8) 触診 (9) 聴診 (10) 打診
  - 2) 身体計測
    - (1) 身長 (2) 体重 (3) 胸囲 (4) 腹囲

**【使用テキスト】**

- ・ 基礎看護技術 I (医学書院)
- ・ 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント (メディックメディア)

**【評価方法】**

- ・ 試験・課題、技術試験 (終講試験)

授業科目	生活援助技術Ⅰ (活動休息・衣生活)	講師	専任教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <p>1. 活動と休息の意義と重要性を理解し、患者の活動および睡眠への適切な援助ができる。</p> <p>2. 衣服のもつ意義、健康と衣生活の関連を理解し、患者にとって適切な衣服の選択と更衣の援助ができる。</p> <hr/> <p><b>【単元】活動休息の援助技術（22時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <p>1. 基本的活動の援助</p> <p>1) 活動の意義、活動制限による影響、廃用症候群、褥瘡</p> <p>2) 体位、基本肢位と良肢位</p> <p>3) 関節の運動・可動域、ボディメカニクス</p> <p>4) アセスメントの視点、活動への援助</p> <p>2. 姿勢・体位の保持・移動の援助</p> <p>1) 転倒・転落、移送時のトラブル</p> <p>2) 姿勢・体位の保持、体位変換</p> <p>3) 移動・移送の援助時の用具（車椅子・ストレッチャー・担架・歩行介助用具）</p> <p>3. 睡眠と休息の看護</p> <p>1) 休息の意義、安静・安静度とは</p> <p>2) 睡眠制御のメカニズム、睡眠の意義</p> <p>3) レム睡眠とノンレム睡眠・身体の生理的変化</p> <p>4) 睡眠障害の要因と種類・心身への影響</p> <p>5) 睡眠に関するアセスメントの留意点、休息・睡眠への援助</p> <p>4. 演習（6時間を含む）</p> <p>1) 体位変換、安楽な体位、褥瘡予防ケア（背抜き、体圧測定）</p> <p>2) 移動・移送（車椅子・ストレッチャー・担架・歩行介助用具）</p> <p>5. パフォーマンス課題（6時間を含む）</p> <p>1) 片麻痺のある患者の車椅子への移乗と移送</p> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護技術Ⅱ（医学書院）</li> <li>・看護がみえる vol.1 基礎看護技術（メディックメディア）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術試験、試験・課題、受講姿勢</li> </ul> <hr/>					

**【単元】衣生活の援助技術（8時間）**

**【内容】**

1. 衣生活の意義
2. 健康と衣服
  - 1) 健康な衣生活の条件
  - 2) 被服気候
  - 3) 衣服選択への援助
3. 衣服着脱への援助
  - 1) 原則と注意事項
  - 2) 寝衣交換の実際（病衣・パジャマ）
  - 3) 寝衣交換の実際（輸液ラインが入っている場合・麻痺のある場合）
4. 演習（4時間を含む）
  - 1) 臥床患者の寝衣交換
  - 2) 点滴施行中の患者の寝衣交換

**【使用テキスト】**

- ・ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
- ・ 看護がみえる vol.1 基礎看護技術（メディックメディア）

**【評価方法】**

- ・ 試験・課題、受講姿勢

授業科目	生活援助技術Ⅱ (食生活・排泄)	講師	専任教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食生活の意義と重要性を理解し、患者にとって適切な食事の援助ができる。</li> <li>2. 排泄の意義と重要性を理解し、患者にとって適切な排泄の援助ができる。</li> <li>3. 食事・排泄援助を必要とする対象への配慮が理解できる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】 食生活の援助技術（12時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康生活における食事の意義       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生理的意義・心理的意義・社会的意義</li> <li>2) 現代の食生活の特徴</li> <li>3) 食と栄養に関する施策と法規</li> <li>4) 食事援助における看護師の役割</li> </ol> </li> <li>2. 食事援助に必要な基礎知識・アセスメント       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 食べるために必要な機能</li> <li>2) 食べるために必要な機能の評価</li> <li>3) 栄養状態のアセスメント</li> </ol> </li> <li>3. 食事援助の基本的な方法       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 栄養サポートチーム（NST）とは</li> <li>2) 食事援助場面（デモンストレーション）</li> <li>3) 食事援助の基本と方法</li> </ol> </li> <li>4. 健康障害のある患者の食事援助方法       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康障害（視覚障害・臥床安静・麻痺・高次機能障害）のある患者の食事援助方法</li> <li>2) 摂食・嚥下訓練（間接訓練）</li> <li>3) 誤嚥・窒息時の対応（背部叩打法・腹部突き上げ法）</li> </ol> </li> <li>5. 健康障害のある患者の食事援助方法（演習）       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 視覚障害患者の食事介助</li> <li>2) 臥床安静患者の食事介助</li> <li>3) 麻痺がある患者の食事介助</li> </ol> </li> <li>6. 非経口的栄養摂取の援助方法       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 非経口的栄養法</li> <li>2) 経管栄養患者の援助（デモンストレーション）</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護技術Ⅱ（医学書院）</li> <li>・看護がみえる vol.1 基礎看護技術（メディックメディア）</li> <li>・看護がみえる vol.2 臨床看護技術（メディックメディア）</li> </ul>					

**【評価方法】**

- ・ 試験・課題、受講姿勢

---

**【単元】排泄の援助技術（18 時間）**

**【内容】**

1. 排泄の意義

1) 排泄の意義

- ・ 生理的意義・心理的意義・社会的意義

2) 排泄ケアにおける看護師の役割

2. 排尿・排便のメカニズム

1) 観察とアセスメント

2) 排泄ケアの種類と排泄に関する援助技術

3. 自然排尿・排便の介助と実際

4. 便器・尿器挿入介助（演習）

5. オムツ交換（演習）

6. 排尿障害

1) 頻尿

2) 尿失禁

3) 尿閉

7. 一時的導尿（演習）

8. 排便障害

1) 下痢

2) 便秘

3) 便失禁

4) グリセリン浣腸・高圧浣腸

9. グリセリン浣腸（演習）

**【使用テキスト】**

- ・ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
- ・ 看護がみえる vol.1 基礎看護技術（メディックメディア）
- ・ 看護がみえる vol.2 臨床看護技術（メディックメディア）

**【評価方法】**

- ・ 試験・課題、受講姿勢

授業科目	生活援助技術Ⅲ（清潔）	講師	専任教員		
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体清潔の意義と重要性を理解し、清潔援助の効果と全身への影響を理解する。</li> <li>2. 患者に応じた清潔援助の方法選択の視点を理解し、基本的な清潔援助が実施できる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> 清潔の援助技術</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体清潔の意義       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生理的意義、心理・社会的意義</li> <li>2) 清潔援助の基礎知識（皮膚・粘膜の構造と機能）</li> </ol> </li> <li>2. 患者の状態に応じた援助方法の選択</li> <li>3. 清潔援助の実際       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入浴・シャワー浴</li> <li>2) 全身清拭</li> <li>3) 洗髪</li> <li>4) 手浴・足浴</li> <li>5) 陰部洗浄</li> <li>6) 整容           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 洗面</li> <li>(2) 目・耳・鼻・爪切り・ひげそり</li> </ol> </li> <li>7) 口腔ケア（義歯の取り扱いを含む）</li> </ol> </li> <li>4. 演習（16 時間を含む）       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臥床患者の全身清拭、おむつを使用した陰部洗浄</li> <li>2) 臥床患者のケリーパッドを用いた洗髪</li> <li>3) 臥床患者の足浴、端座位で足浴バケツを使用するの足浴、シャボンラッピング</li> <li>4) 臥床患者の手浴、座位で行う手浴</li> <li>5) 口腔ケア</li> </ol> </li> <li>5. パフォーマンス課題（6 時間を含む）       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臥床患者の全身清拭、おむつを使用した陰部洗浄</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護技術Ⅱ（医学書院）</li> <li>・看護がみえる Vol.1 基礎看護技術（メディックメディア）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術試験、試験・課題、受講姿勢（出欠、主体的な取組の態度・参加度、提出期限）</li> </ul> <p><b>【合格基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験、技術試験（全身清拭）、技術試験（陰部洗浄） それぞれ配点の 6 割</li> </ul>					

授業科目	療養援助技術 I (与薬)	講師	専任教員		
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 与薬における看護師の責任と役割を理解し、確かな知識に基づいた安全な与薬に伴う援助ができる</li> <li>2. 患者体験から与薬の援助を受ける患者の気持ちを知ることができる</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】 与薬の技術</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 与薬の基礎知識</li> <li>2. 与薬における看護師の役割</li> <li>3. 与薬における安全確保の技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 誤薬防止</li> <li>2) 患者誤認防止</li> </ol> </li> <li>4. 与薬方法と効果の観察 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 経口与薬・口腔内与薬</li> <li>2) 直腸内与薬</li> <li>3) その他の与薬法(吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬)</li> <li>4) 注射による与薬法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)皮下注射 (2)筋肉内注射 (3)皮内注射 (4)静脈内注射</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>5. 輸液療法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 点滴静脈内注射</li> <li>2) 中心静脈輸液</li> <li>3) 輸液ポンプ、シリンジポンプの知識</li> <li>4) チューブ・ライントラブルのおこりやすい状況と対策</li> </ol> </li> <li>6. 輸血管理</li> <li>7. 演習 (10 時間を含む) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 経皮・外用薬の投与</li> <li>2) 坐薬の投与</li> <li>3) 皮下注射</li> <li>4) 筋肉内注射</li> <li>5) 点滴静脈内注射の管理</li> <li>6) 静脈確保・点滴静脈内注射</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護技術 I・II (医学書院)</li> <li>・看護がみえる vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア)</li> <li>・看護がみえる vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講姿勢、試験</li> </ul>					

授業科目	療養援助技術Ⅱ (診察検査処置・救命救急・医療機器)	講師	専任教員①	6 時間	
			専任教員②	14 時間	
			消防署職員①	2 時間	
			消防署職員②	4 時間	
			病院臨床工学技士	4 時間	
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診察・検査・処置に伴う知識と介助技術を習得できる。</li> <li>2. 救命救急処置に伴う知識と技術を習得できる。</li> <li>3. 医療機器の操作・管理に伴う知識と技術を習得できる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】 診察・検査・処置に伴う介助技術 (担当：専任教員① 6 時間)</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診察・検査・処置       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 診療とは</li> <li>2) 診察・検査・処置に伴う介助技術</li> <li>3) 静脈血採取の方法</li> </ol> </li> <li>2. 演習 (2 時間を含む)       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 静脈血採血 (モデル人形)</li> <li>2) 検体の取り扱い</li> <li>3) 検査の介助</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護技術Ⅱ (医学書院)</li> <li>・看護がみえる vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験、受講姿勢</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】 救命救急処置の技術</b> (担当：専任教員② 14 時間、消防署職員① 2 時間、消防署職員② 4 時間)</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急看護の概念と救急看護の対象       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 我が国の救急医療体制           <ol style="list-style-type: none"> <li>①消防指令センターの機能と役割 (担当：消防署職員① 2 時間)</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. 救急看護体制と看護の展開</li> <li>3. 主要病態に対する救急処置と看護       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心肺停止状態への対応           <ol style="list-style-type: none"> <li>①一次救命処置(BLS) 演習 (担当：消防署職員② 4 時間)</li> <li>②二次救命処置(ALS)</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>					

#### 4. 救命救急処置の技術演習

- 1) 止血法
- 2) 包帯法
- 3) 搬送法
- 4) トリアージ

#### 【使用テキスト】

- ・ 救急看護学（医学書院）
- ・ 看護がみえる vol.2 臨床看護技術（メディックメディア）

#### 【評価方法】

- ・ 試験・課題、受講姿勢
  - ・ BLS 資格取得試験
- 

#### 【単元】医療機器の操作・管理（担当：病院臨床工学技士 4時間）

#### 【内容】

1. 医療機器の原理と実際
2. 輸液ポンプ・シリンジポンプ、心電図モニター、人工呼吸器の取り扱い
3. 演習
  - 1) 輸液ポンプ・シリンジポンプ
  - 2) 心電図モニター
  - 3) 人工呼吸器の操作

#### 【使用テキスト】

- ・ 講師の準備する資料

#### 【評価方法】

- ・ 出席レポート

授業科目	臨床看護方法論	講師	専任教員①	10 時間	
			専任教員②	8 時間	
			専任教員③	4 時間	
			専任教員④	8 時間	
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康障害の経過（健康レベル）の特徴及び各期における患者・家族のニーズと、各期の看護援助を理解できる。</li> <li>臨床判断の基礎知識を修得することができる。</li> <li>各主要症状の発生のメカニズムや看護について理解できる。</li> <li>履修した知識を活用し、看護の展開について理解できる。</li> <li>主体的に学ぶ姿勢で講義に参加することができる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】健康障害をもつ対象の理解と看護展開（担当：専任教員① 4 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康障害をもつ対象と家族 <ol style="list-style-type: none"> <li>健康の捉え方</li> <li>看護の対象と家族</li> <li>臨床での看護実践の視点（症状別、治療別、経過別、機能障害別）</li> <li>健康障害（健康状態）の経過（分類、健康レベル）</li> </ol> </li> <li>健康障害の経過に基づく看護 急性期における看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>急性期の特徴</li> <li>急性期の患者のニーズ</li> <li>急性期の患者への看護援助 * 危機理論、危機モデル</li> </ol> </li> <li>健康障害の経過に基づく看護 慢性期における看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性期の特徴</li> <li>慢性期の患者のニーズ</li> <li>慢性期にある患者への看護援助</li> </ol> </li> <li>健康障害の経過に基づく看護 回復期（リハビリテーション期）の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>回復期（リハビリテーション期）の特徴</li> <li>回復期（リハビリテーション期）の患者のニーズ</li> <li>回復期（リハビリテーション期）の患者への看護援助 * ICF、障害受容の過程</li> </ol> </li> <li>健康障害の経過に基づく看護 終末期の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>終末期の特徴</li> <li>終末期の患者のニーズ</li> <li>終末期の患者への看護援助 * 緩和ケア、全人的苦痛、死にゆく人の心理過程</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床看護総論（医学書院）</li> </ul>					

**【評価方法】**

- ・ 終講試験

---

**【単元】 臨床判断の基礎知識** （担当：専任教員① 6時間）

**【内容】**

1. 臨床判断能力とは
  - 1) 臨床判断能力（育成）が必要とされる背景
  - 2) 臨床判断能力とは
  - 3) 臨床判断のプロセス
2. 看護師のように考える  
事例の「気づき」と「解釈」

**【使用テキスト】**

- ・ 臨床看護総論（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 終講試験

---

**【単元】 主要な症状を示す対象者の看護**（20時間）

**【内容】**

1. 発熱・脱水・浮腫・腹水 （担当：専任教員② 8時間）
  - 1) 定義、原因、誘因、メカニズム
  - 2) 看護の展開
2. 血圧低下・ショック （担当：専任教員③ 4時間）
  - 1) 定義、原因、誘因、メカニズム
  - 2) 看護の展開
3. 胸痛・頭痛・腹痛 （担当：専任教員④ 8時間）
  - 1) 定義、原因、誘因、メカニズム
  - 2) 看護の展開

**【使用テキスト】**

- ・ 臨床看護総論（医学書院）
- ・ 看護過程に沿った対症看護（学研メディカル秀潤社）

**【評価方法】**

- ・ 試験・課題、終講試験、受講姿勢

授業科目	臨床判断演習 I (主要な症状を示す対象者の看護)	講師	専任教員①	10 時間	
			専任教員②	6 時間	
			専任教員③	14 時間	
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 重要な情報を収集することができ、状況を五感を使い把握することができる。</li> <li>2. 情報の意味付けを行い、情報の優先順位を決定できる。</li> <li>3. 看護介入の方向性を考え、適切と考えられる看護介入を決定できる。</li> <li>4. 適切と考えられる看護介入を、実際に行動することができる。</li> <li>5. 看護活動に対する患者の反応に関心を向け評価・修正を行うことができる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】 主要な症状を示す対象者の看護演習</b></p> <p><b>【内容】 シミュレーション演習</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発熱・脱水症状がある患者の看護 ( 担当：専任教員① 10 時間 )       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 気づく 2) 解釈する 3) 反応する 4) 省察する</li> </ol> </li> <li>2. 血圧低下・ショック症状がある患者の看護 ( 担当：専任教員② 6 時間 )       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 気づく 2) 解釈する 3) 反応する 4) 省察する</li> </ol> </li> <li>3. 胸痛・頭痛・腹痛がある患者の看護 ( 担当：専任教員③ 14 時間 )       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 気づく 2) 解釈する 3) 反応する 4) 省察する</li> </ol> </li> <li>4. パフォーマンス課題(4 時間を含む)       <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要な症状がある患者のシミュレーション事例</li> </ul> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護過程に沿った対症看護(学研メディカル秀潤社)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終講試験</li> </ul>					

授業科目	地域・在宅看護論 I (地域で暮らす人々と家族の支援)	講師	専任教員①	14 時間
			保健師	8 時間
開講時期	1 年次	単位数	専任教員② 見学	4 時間
			大学教員	4 時間
			1 単位	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の人々の暮らしと暮らしの基盤としての「地域」を理解するとともに、地域でどのような自助・互助・共助・公助が行われているかを学ぶ。</li> <li>2. 健康の保持増進・疾病の予防に関わる支援の必要性と概要を理解する。</li> <li>3. 支援を必要とする家族の状況及びその支援について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】地域の暮らしと人々の理解（担当：専任教員① 14 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 暮らしと健康、暮らしと地域</li> <li>2. 暮らしの基盤としての「地域」を理解するために（導入、演習説明）</li> <li>3. フィールドワーク演習</li> <li>4. 演習グループ発表</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・在宅看護の基盤（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック（演習、課題レポート）</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】健康の保持増進・疾病の予防に関わる支援（担当：保健師 8 時間、専任教員②4 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域保健に関わる法律と保健師</li> <li>2. 地域における保健活動</li> <li>3. 地域の人々の健康課題の理解</li> <li>4. 保健活動の実際（保健センター見学、保健事業の見学）（専任教員② 4 時間）</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富士市の保健（PDF 版）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験、出席レポート</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】家族の理解と支援（担当：大学教員 4 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で暮らす家族の理解と支援 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家族の現状と変遷</li> <li>2) 在宅看護の対象としての家族</li> </ol> </li> </ol>				

- 3) 家族のとらえ方と看護師のかかわり
  - 4) 家族のアセスメント
  - 5) 地域システムの視点から家族を支える
2. 支援を必要とする家族の事例検討（グループワーク、ロールプレイ）

【使用テキスト】

- ・ 地域・在宅看護の基盤（医学書院）
- ・ 家族看護学（医学書院）

【評価方法】

- ・ 受講姿勢（グループワークとロールプレイへの貢献）
- ・ 課題レポート

授業科目	地域・在宅看護論Ⅱ (地域包括ケアと多職種連携)	講師	保健師	4 時間	
			医師	4 時間	
			退院支援看護師	4 時間	
			専任教員	18 時間	
			リハビリテーション教員①②	4 時間	
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアシステムの実際を知り、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考える。</li> <li>2. 退院支援・退院調整の実際を知り、療養の場の移行支援と多職種連携について理解する。</li> <li>3. 多職種の役割と責務について多職種と共有し、多職種間のコミュニケーション能力をつける。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】 地域包括ケアシステムの実際 (担当：保健師 4 時間)</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアシステムの概要 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域包括支援センターの機能・業務</li> <li>2) 地域支援事業</li> <li>3) 自助・互助・共助・公助</li> </ol> </li> <li>2. 地域包括ケアシステムの実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域包括支援センターの活動の実際</li> <li>2) 介護予防・日常生活支援総合事業</li> <li>3) 地域ケア会議</li> <li>4) 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域・在宅看護の基盤 (医学書院)</li> <li>・ 地域・在宅看護の実践 (医学書院)</li> <li>・ 配布資料</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席レポート</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】 地域包括ケアシステムにおける在宅医療 (担当：医師 4 時間)</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアシステムにおける在宅医療と多職種連携</li> <li>2. 在宅療養支援診療所の役割・機能</li> <li>3. 地域包括ケアシステムにおける在宅医療の実際</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配布資料</li> </ul>					

**【評価方法】**

- ・ 出席レポート

---

**【単元】 退院支援の実際（担当：退院支援看護師 4時間）**

**【内容】**

1. 退院支援・退院調整の実際
2. 入退院時の他機関・他施設との連携

**【使用テキスト】**

- ・ 地域・在宅看護の基盤（医学書院）
- ・ 地域・在宅看護の実際（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 試験

---

**【単元】**

- ・ 多職種連携・協働の実際（担当：専任教員 14時間）
- ・ 専門職連携演習（担当：専任教員、リハビリテーション教員①② 4時間）

**【内容】**

1. 多職種連携・協働の実際
  - 1) 専門職連携学修の意義
  - 2) 専門職連携の基礎的知識
  - 3) 他職種の理解
  - 4) 事例検討、看護カンファレンスとリフレクション
2. 専門職連携演習（富士リハビリテーション大学校との合同演習）
  - ケースカンファレンス（在宅療養移行期の患者）
  - リフレクションと学びの共有（発表）

**【使用テキスト】**

- ・ 地域・在宅看護の基盤（医学書院）
- ・ 地域・在宅看護の実際（医学書院）
- ・ 配布資料

**【評価方法】**

- ・ ルーブリック（演習、課題レポート）

授業科目	地域・在宅看護概論	講師	専任教員		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で療養しながら生活する人とその家族が理解できる。</li> <li>2. 地域・在宅における看護の目的と役割の概要について考えられる。</li> <li>3. 地域のケアシステムの概要について理解できる。</li> </ol> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護が必要とされる背景</li> <li>2. 地域・在宅看護の目的</li> <li>3. 地域・在宅看護の役割と機能</li> <li>4. 生活の場に応じた看護の特徴</li> <li>5. 地域・在宅看護の対象者</li> <li>6. 家族、在宅療養者の家族への看護（家族の介護力のアセスメント、レスパイトケア）</li> <li>7. 地域・在宅療養を支える制度（訪問看護制度、介護保険制度、障害者総合支援法、難病法）</li> <li>8. 地域包括ケアシステム、地域包括支援センター、対象者の権利保障（成年後見制度、虐待防止）</li> <li>9. 地域連携、退院支援・退院調整、多職種連携、継続看護</li> <li>10. 災害時の地域・在宅看護</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域・在宅看護の基盤（医学書院）</li> <li>・ 地域・在宅看護の実践（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul>					

授業科目	在宅援助論Ⅰ（対象別在宅看護・在宅ケアシステム）	講師	訪問看護ステーション管理者・介護支援専門員		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者の主な対象別看護について理解する。</li> <li>2. 訪問看護サービスのしくみと在宅ケアシステム、ケアマネジメントについて理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】 対象別在宅看護</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 難病（ALS等）療養者の在宅支援</li> <li>2. 在宅における終末期ケア</li> <li>3. 在宅におけるリハビリテーション看護</li> <li>4. 小児の在宅療養者への看護（医療的ケア児等）</li> <li>5. 精神障害のある在宅療養者への看護</li> <li>6. 認知症療養者の在宅ケア</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域・在宅看護の基盤（医学書院）</li> <li>・ 地域・在宅看護の実践（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】 訪問看護とケアマネジメント</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 暮らしを支える訪問看護</li> <li>2. 訪問看護ステーションと多職種連携</li> <li>3. 在宅ケアマネジメント</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域・在宅看護の基盤（医学書院）</li> <li>・ 地域・在宅看護の実践（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul>					

授業科目	在宅援助論Ⅱ (在宅における生活援助・ 医療管理)	講師	訪問看護師 在宅ケア認定看護師・酸素機器業者	14 時間 16 時間
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数 30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護における生活援助のアセスメントと支援方法を理解する。</li> <li>2. 在宅における医療管理を要する人の看護について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】在宅における生活援助（担当：訪問看護師 14 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅における生活援助の考え方</li> <li>2. 在宅における活動（移動）を支える</li> <li>3. 在宅での食生活を考える</li> <li>4. 排泄コントロールの方法について</li> <li>5. 暮らしにおける清潔・衣生活とその援助の工夫</li> <li>6. 演習：在宅での日常生活援助技術（在宅での清潔援助、摘便、移動式浴槽、入浴介助）</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域・在宅看護の実践（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】在宅における医療管理</b> (担当：在宅ケア認定看護師 14 時間・酸素機器業者による演習 2 時間)</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅における医療管理を要する人の看護 概論</li> <li>2. 膀胱留置カテーテルの管理（膀胱洗浄を含む）</li> <li>3. 在宅における褥瘡ケア</li> <li>4. 在宅酸素療法（HOT）、在宅人工呼吸療法（NPPV 含む）</li> <li>5. 在宅経管栄養・経腸栄養法（PEG）、在宅中心静脈栄養法（HPN）</li> <li>6. 服薬管理、疼痛コントロール</li> <li>7. 在宅におけるフィジカルイグザミネーションの実際（演習）</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域・在宅看護の実践（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul>				

授業科目	在宅援助論Ⅲ（在宅看護実践プロセス）	講師	専任教員①	16 時間		
			訪問看護認定看護師	4 時間		
			専任教員②	10 時間		
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間	
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の実践プロセスと特徴及び訪問、指導相談対応の考え方に気づく</li> <li>2. 療養者と家族が“ともに生きる”ための支援を考えることができる</li> <li>3. 在宅療養者の健康状態を判断し、必要な対応を考えることができる</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】在宅看護の実践プロセスと特徴（在宅看護過程・訪問演習）</b>  （担当：専任教員① 16 時間）</p> <p><b>【内容】（グループワーク・課題演習含む）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護過程 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅看護過程展開の重要点</li> <li>2) 訪問看護過程（情報収集、アセスメント、訪問看護計画、評価）</li> <li>3) 訪問看護計画立案</li> </ol> </li> <li>2. 訪問演習（訪問相談対応） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅における訪問時のマナー・対応</li> <li>2) 在宅看護における指導・相談</li> <li>3) 家族支援</li> <li>4) 在宅療養者と家族の事例検討（グループワーク・課題演習）</li> <li>5) 訪問演習（ロールプレイ）（4 時間）</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域・在宅看護の実践（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習・課題（ポートフォリオ）、受講姿勢、（ルーブリック）</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】在宅におけるヘルスアセスメント（臨床判断）（担当：訪問看護認定看護師 4 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅におけるヘルスアセスメント（臨床判断）</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配布資料</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul> <hr/>						

**【単元】** 在宅における臨床判断シミュレーション演習（担当：専任教員② 10 時間）

**【内容】**

1. 在宅における臨床判断シミュレーション演習（シミュレーション人形活用）

**【使用テキスト】**

・ 配布資料

**【評価方法】**

・ 演習・課題

授業科目	成人看護学総論	講師	専任教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人の成長・発達から見た特徴を理解する。</li> <li>2. 成人各期の特徴と発達課題を理解する。</li> <li>3. 成人期の生活と取り巻く環境の特徴を理解する。</li> <li>4. 成人各期の保健と動向を理解する。</li> <li>5. 成人期の健康増進・疾病予防に向けた対策と看護を理解する。</li> <li>6. 成人への看護アプローチの基本を理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】成人看護学概論（22時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある人の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成人であるということ</li> <li>2) 生涯発達における成人</li> <li>3) 発達段階・発達課題（エリクソン・ハヴィガースト）</li> </ol> </li> <li>2. 成人各期の特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 青年期</li> <li>2) 壮年期、中年期</li> <li>3) 向老期</li> </ol> <p>※演習：成人各期の特徴と発達課題について（GW、寸劇発表）</p> </li> <li>3. 成人の生活 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活の概念・生活環境</li> <li>2) 職業生活・労働の実態と社会状況</li> <li>3) 家庭生活・個人生活</li> <li>4) ワークライフバランス・働き方改革</li> </ol> </li> <li>4. 成人の学習とエンパワメントを促すためのアプローチ <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成人の学習：アンドラゴジー</li> <li>2) エンパワメントを促すためのアプローチ</li> </ol> </li> <li>5. セルフマネジメントへの支援 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 症状マネジメント</li> <li>2) 自己効力感を高める援助</li> <li>3) 教育的アプローチ</li> <li>4) ソーシャルサポート</li> <li>5) ピアサポート</li> </ol> </li> <li>6. ストレスと健康生活 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ストレスとストレス対処（コーピング）</li> <li>2) ストレス-マネジメントと健康生活</li> </ol> </li> </ol>					

- 3) ライフイベントとストレス
- 4) ストレス関連疾患の予防と対応
- 7. 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係  
(ワーク：成人患者と看護師の人間関係について思うこと)
- 8. 成人看護における質の保証（クリニカルパス）
- 9. 成人への看護アプローチに有用な理論
  - 1) フィンクの危機モデル
  - 2) 慢性病とともに生きること（病みの軌跡）
  - 3) 障害の認識過程

**【使用テキスト】**

- ・成人看護学総論（医学書院）

**【評価方法】**

- ・試験

---

**【単元】成人保健（8時間）**

**【内容】**

- 1. 成人保健
  - 1) 成人の生活
    - (1) 成人の生活状況
    - (2) 成人保健に関わる統計
  - 2) 成人期の健康増進・疾病予防
    - (1) 生活習慣に関連する健康課題、生活習慣病対策
    - (2) 健康日本21・健康増進法・ヘルスプロモーション、予防のレベル  
ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ
    - (3) 特定健診・特定保健指導
    - (4) 職業に関連する健康課題、産業保健統計・職業性疾病・労働者のメンタルヘルス  
対策・自殺

**【使用テキスト】**

- ・成人看護学総論（医学書院）

**【評価方法】**

- ・試験

授業科目	成人看護学Ⅰ (回復期・リハビリテーション看護)	講師	専任教員①	11 時間
			理学療法士	2 時間
			作業療法士	2 時間
			病院言語聴覚士	2 時間
			脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	4 時間
			専任教員②	4 時間
			皮膚・排泄ケア認定看護師	5 時間

開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
------	------	-----	------	-----	-------

【目標】

1. 回復期・リハビリテーション期の特徴について理解する。
2. リハビリテーション医療の特徴および実際を理解する。
3. 回復期にあり、リハビリテーションを必要とする対象および家族を理解する。
4. 回復過程で生じやすい問題、リハビリテーション期の患者のニーズを理解する。
5. 回復期・リハビリテーション期にある患者への援助を理解する。

【単元】回復期・リハビリテーション看護概論・看護過程（担当：専任教員① 11 時間）

【内容】

1. 回復期・リハビリテーション期における看護
  - 1) リハビリテーション看護の定義、リハビリテーションチームにおける看護師の役割
  - 2) 回復期リハビリテーションと看護
  - 3) リハビリテーションを阻害する要因と促進する要因
  - 4) 対象理解のための理論・概念、障害をもつ人の心理的問題
  - 5) 療養生活を支える家族への援助、社会資源の活用
  - 6) 倫理的課題
2. 回復期・リハビリテーション期患者の看護過程の展開（グループワーク・演習含む）
  - 1) 脳神経系に障害のある患者の看護過程の展開

【使用テキスト】

- ・ リハビリテーション看護（医学書院）
- ・ 脳・神経（医学書院）

【評価方法】

- ・ 演習・課題

【単元】リハビリテーション医療①

【内容】

1. 言語療法、嚥下リハビリテーション（担当：病院言語聴覚士 2 時間）

【使用テキスト】

- ・ 耳鼻咽喉（医学書院）
- ・ リハビリテーション看護（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 出席レポート

---

**【単元】 リハビリテーション医療②**

**【内容】**

1. 理学療法（担当：理学療法士 2時間）  
　　<演習> 自動・他動運動の援助
2. 作業療法（担当：作業療法士 2時間）  
　　<演習> 生活聞き取り演習・ADL 動作演習（片麻痺患者の更衣、自助具：ソックスエイド）

**【使用テキスト】**

- ・ リハビリテーション看護（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 試験

---

**【単元】 各機能障害とリハビリテーション看護**

**【内容】**

1. 脳神経系の障害とリハビリテーション看護  
　　（担当：脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 4時間）
  - 1) 患者の特徴、身体・心理・社会的特徴
  - 2) リハビリテーション期・回復期にある患者の看護

**【使用テキスト】**

- ・ 脳・神経（医学書院）
2. 運動器系の障害とリハビリテーション看護（担当：専任教員② 4時間）
    - 1) 患者の特徴、身体・心理・社会的特徴
    - 2) リハビリテーション期・回復期にある患者の看護

**【使用テキスト】**

- ・ 運動器（医学書院）
3. ストーマを造設した患者の看護（皮膚・排泄ケア認定看護師 5時間）
    - 1) ストーマ造設術の概要（人工肛門・尿路ストーマ）
    - 2) 回復期の看護、ストーマ造設術後の日常生活についての援助  
　　<演習> ストーマ管理（人工肛門）

**【使用テキスト】**

- ・ 消化器（医学書院）
- ・ 腎・泌尿器（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 試験

授業科目	成人看護学Ⅱ (慢性期看護)	講師	専任教員	20 時間		
			看護師	2 時間		
			病院看護師	8 時間		
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間	
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性期の特徴について理解する。</li> <li>慢性状態を引き起こす代表的な疾患や医療の特徴を理解する。</li> <li>慢性期にある対象および家族の特徴・ニーズについて理解する。</li> <li>慢性期にある患者および家族への看護について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】慢性期看護概論（担当：専任教員 2 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性期および対象の特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性期とは</li> <li>慢性期治療の特徴</li> <li>慢性期の患者のニーズ</li> <li>慢性期にある患者および家族への看護援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>エンパワメント</li> <li>セルフケア獲得に向けた支援</li> <li>療養継続を支援するためのチーム医療、社会的支援の獲得</li> <li>セルフマネジメント支援の構成要素</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床看護総論（医学書院）</li> <li>成人看護学総論（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】看護過程（担当：専任教員 14 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性期患者の看護過程（コンセプトマップ含む） <ol style="list-style-type: none"> <li>内分泌・代謝系に障害のある患者の看護</li> <li>糖尿病患者の看護（演習：血糖測定含む）</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内分泌・代謝（医学書院）</li> <li>基礎看護技術Ⅱ（医学書院）</li> <li>看護がみえる Vol.2 臨床看護技術（メディックメディア）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験・課題</li> </ul>						

**【単元】各機能障害と慢性期看護**

**【内容】**

1. 呼吸器系の障害と慢性期看護（担当：専任教員 4時間）

- 1) 慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の特徴と看護
- 2) 呼吸リハビリテーション（演習含む）

**【使用テキスト】**

- ・呼吸器（医学書院）

**【評価方法】**

- ・試験

---

2. 免疫機構の障害と慢性期看護（担当：看護師 2時間）

- 1) 免疫機構に障害（アレルギー、膠原病）のある患者の特徴と看護

**【使用テキスト】**

- ・アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）

**【評価方法】**

- ・試験

---

3. 腎機能障害と慢性期看護（担当：病院看護師 8時間）

- 1) 内部環境（体液量・電解質・酸塩基平衡）調節機能障害のある患者の特徴
- 2) 内部環境（体液量・電解質・酸塩基平衡）調節機能の観察とアセスメント
  - (1) 腎疾患による浮腫・高血圧・うっ血性心不全・尿毒症、脱水
  - (2) 水分出納、身体所見、血液検査（腎機能障害・低たんぱく血症・脂質異常症・高窒素血症・電解質異常・酸塩基平衡の障害・貧血・その他）
- 3) 慢性腎不全の病期および慢性腎臓病（CKD）の重症度に応じた生活指導
- 4) 透析療法を受ける患者の看護
  - (1) 保存期から透析導入前（治療選択期）の看護
  - (2) 血液透析患者の看護  
導入期の看護（不均衡症候群への看護, 飲水・体重・食事・薬物管理に関する指導, シヤント管理と患者指導, カテーテル管理）  
維持期の看護
  - (3) 腹膜透析患者の看護  
導入期・維持期の看護
  - (4) 社会保障制度の活用
- 5) 腎移植を受ける患者の看護

**【使用テキスト】**

- ・腎・泌尿器（医学書院）

**【評価方法】**

- ・試験

授業科目	成人看護学Ⅲ (終末期看護・緩和ケア・ がん看護)	講師	専任教員・納棺師	12 時間	
			緩和ケア認定看護師①	4 時間	
			緩和ケア認定看護師②	4 時間	
			がん看護専門看護師	4 時間	
			がん化学療法看護認定看護師	6 時間	
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期の特徴について理解する</li> <li>2. 終末期医療の特徴および実際を理解する</li> <li>3. 終末期患者・家族の特徴、ニーズを理解する</li> <li>4. 終末期にある患者への看護援助を理解する</li> <li>5. 緩和ケアの概要および実際について理解する</li> <li>6. がん看護の概要および実際について理解する</li> <li>7. 放射線治療および看護について理解する</li> <li>8. がん化学療法および看護について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】終末期看護概論（担当：専任教員 10 時間・納棺士 2 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期における患者とその家族       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 終末期とは</li> <li>2) 患者・家族の全人的苦痛の理解</li> </ol> </li> <li>2. 終末期医療の現状       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 終末期医療の現状</li> </ol> </li> <li>3. 終末期にある患者の看護       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 終末期患者の身体的特徴</li> </ol> </li> <li>4. 終末期における看護師の役割・機能</li> <li>5. 事例学修：肝硬変終末期患者の看護（コンセプトマップ含む）</li> <li>6. 死の看取りの援助       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護における葬送儀礼</li> <li>2) 死後の処置（納棺師による講義・演習含む 2 時間）</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床看護総論（医学書院）</li> <li>・成人看護学総論（医学書院）</li> <li>・消化器（医学書院）</li> <li>・基礎看護技術Ⅱ（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験・課題</li> </ul>					

**【単元】緩和ケアとがん看護**

**【内容】**

1. 緩和ケア概論（担当：緩和ケア認定看護師① 4時間）
  - 1) 緩和ケアの歴史・発展、定義および関連する概念
  - 2) 様々な療養場における、緩和ケアの現状
2. 緩和ケアの対象および緩和ケアの方法
3. 麻薬性鎮痛薬を使用している患者の看護
  
4. 臨死期のケア（担当：緩和ケア認定看護師② 4時間）
  - 1) 臨死期における全人的苦痛の緩和
  - 2) 家族のケア
  - 3) 死亡前後のケア
  - 4) 医療スタッフのケア
  
5. がん看護概論（担当：がん看護専門看護師 4時間）
  - 1) がん医療の現在と看護
  - 2) がんの病態と臨床経過の特徴
6. がん治療に対する看護
  - 1) がん手術療法における看護
  - 2) 放射線療法における看護

**【使用テキスト】**

- ・ 緩和ケア（医学書院）
- ・ がん看護学（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 試験

- 
7. がん化学療法における看護（担当：がん化学療法看護認定看護師 6時間）
  8. 事例学修：がん化学療法を受けている患者の看護（血液・造血器系）

**【使用テキスト】**

- ・ がん看護学（医学書院）
- ・ 血液・造血器（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 試験

授業科目	成人看護学Ⅳ (周術期看護)	講師	専任教員	18 時間		
			皮膚・排泄ケア認定看護師	2 時間		
			手術看護認定看護師	10 時間		
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間	
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周術期の特徴について理解する。</li> <li>2. 周術期における患者の状態と患者のおかれる環境を理解する。</li> <li>3. 周術期における患者・家族のニーズについて理解する。</li> <li>4. 周術期における看護師の役割を理解する。</li> <li>5. 周術期における患者・家族への看護について理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> 周術期看護概論・手術前後の看護と臨床判断演習 (担当：専任教員 18 時間)</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周術期看護の概論 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 周術期とは</li> <li>2) 外科的治療の特徴と変遷</li> <li>3) 手術侵襲と生体反応</li> <li>4) 手術を受ける患者の状況</li> <li>5) 周術期における安全管理</li> </ol> </li> <li>2. 手術前患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 術前オリエンテーション</li> <li>2) 不安の緩和</li> <li>3) 全身状態を整える</li> <li>4) 手術前日の準備</li> <li>5) 手術当日の看護</li> </ol> </li> <li>3. 手術後患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 手術後の回復を促進するための看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 手術後の看護目標</li> <li>(2) 手術後の患者のアセスメント (ムーアの分類)</li> <li>(3) 手術後の環境を整える</li> </ol> <p>&lt;演習&gt;呼吸音聴取 酸素吸入療法の実施・酸素ボンベの操作・管理 口腔内・鼻腔内吸引</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(4) 早期離床の促進</li> <li>(5) 手術後の疼痛管理</li> <li>(6) 輸液と栄養管理</li> <li>(7) ドレーン管理</li> </ol> </li> <li>2) 術後合併症</li> </ol> </li> </ol>						

- (1) 術後出血
  - (2) 循環器合併症
  - (3) 呼吸器合併症
  - (4) 精神・神経系合併症
  - (5) 消化器系合併症
- 3) おこりやすい術後合併症の予防と発症時の対応
  - 4) 自己管理に向けた援助
4. 周術期における臨床判断・シミュレーション演習
- 1) 消化管手術を受ける患者の看護（胃切除術・大腸切除術）
  - 2) 開頭術を受ける患者の看護（脳動脈瘤クリッピング術）
  - 3) 運動器系の手術を受ける患者の看護（人工骨頭置換術）

**【使用テキスト】**

- ・臨床外科看護総論（医学書院）
- ・臨床外科看護各論（医学書院）
- ・消化器（医学書院）
- ・脳・神経（医学書院）
- ・運動器（医学書院）
- ・パーフェクト臨床実習ガイド成人看護Ⅰ急性期・周手術期（照林社）

**【評価方法】**

- ・試験、課題

---

**【単元】 創傷治癒（担当：皮膚・排泄ケア認定看護師 2時間）**

**【内容】**

1. 創傷治癒過程
2. 創傷治癒過程と創傷の治癒形式
3. 創傷治癒に影響する因子
4. 創傷管理法と創傷治癒の促進
5. 創傷治癒過程における合併症に対するケア
  - 1) 創傷処置（創洗浄、創保護）
  - 2) ドレイン類の挿入部の処置

**【使用テキスト】**

- ・臨床外科看護総論（医学書院）
- ・看護がみえる Vol.1 臨床看護技術（メディックメディア）

**【評価方法】**

- ・出席レポート

【単元】手術中の看護（担当：手術看護認定看護師 10時間）

【内容】

1. 麻酔法
  - 1) 麻酔の種類
  - 2) 術前管理
  - 3) 術中管理・術中モニター
  - 4) 術後管理
  - 5) 全身麻酔
  - 6) 局所麻酔
2. 呼吸管理
  - 1) 酸素療法
  - 2) 機械的人工換気
3. 手術室の安全管理
4. 入室前の看護
  - 1) 患者のアセスメント・術前訪問
  - 2) 手術室の準備
5. 入室時の看護
6. 麻酔導入時の看護
  - 1) 全身麻酔
  - 2) 局所麻酔
7. 手術体位
  - 1) 手術前後の体位に関する注意点
  - 2) 手術体位固定
  - 3) 手術体位が及ぼす影響
8. 手術中の看護
  - 1) 器械出し看護師の役割
  - 2) 外まわり看護師の役割
  - 3) バイタルサイン・生理機能の観察
9. 手術終了時の看護
10. 手術室の環境管理

【使用テキスト】

- ・臨床看護総論（医学書院）
- ・臨床外科看護総論（医学書院）
- ・パーフェクト臨床実習ガイド成人看護Ⅰ急性期・周手術期（照林社）

【評価方法】

- ・試験

授業科目	成人看護学Ⅴ (急性期看護・クリティカルケア)	講師	救急看護認定看護師①	4 時間	
			救急看護認定看護師②	8 時間	
			クリティカルケア認定看護師	8 時間	
			専任教員・救急看護認定看護師①②③	10 時間	
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

【目標】

1. 急性期・クリティカルケアの特徴について理解する。
2. クリティカルケアを必要とする対象および家族を理解する。
3. クリティカルケアにおけるチーム医療を理解する。
4. クリティカルケアと倫理・法律を理解する。
5. クリティカルな患者の病態の理解と初期治療時の看護を理解する。
6. 集中治療室での看護師の役割と求められる能力を理解する。
7. クリティカルケアに必要な看護技術を理解する。
8. 急性期・クリティカルケアにおける臨床判断能力を養う。

【単元】急性期看護・クリティカルケア概論

【内容】

1. 急性期看護・クリティカルケア概論（担当：救急看護認定看護師① 4 時間）
  - 1) 急性期とは・クリティカルケアとは
  - 2) クリティカルケア看護の場
  - 3) 救急医療体制について・市内の救急医療の現状
  - 4) クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴・アセスメントで必要な知識
  - 5) クリティカルケアとチーム医療
  - 6) 救急での意思決定支援
2. クリティカルな患者の病態の理解と看護
  - 1) 侵襲と生体反応について
  - 2) 炎症反応について
  - 3) 検査について
    - (1) 血液検査（血算、生化学検査、血液ガス分析、凝固・線溶系検査）
    - (2) 生理機能検査（12 誘導心電図検査、超音波検査）
    - (3) 放射線防護の 3 原則を含めた画像検査（X 線検査、CT 検査、MRI 検査、血管造影＜CAG、PCI 含む＞）
3. 重症患者への系統別アセスメント（担当：救急看護認定看護師② 8 時間）
  - 1) 脳・神経系のアセスメント
  - 2) 循環器系のアセスメント
  - 3) 呼吸器系のアセスメント
4. 重症救急患者の全身状態のアセスメント
  - 1) 第一印象の評価

- 2) 一次評価、二次評価
5. 各機能障害の初期治療とケア
  - 1) 呼吸機能障害
  - 2) 循環機能障害
  - 3) 脳・神経障害
  - 4) 消化器障害
6. 心肺蘇生法
  - 1) 二次救命処置 (ALS)
  - 2) 心拍再開後のモニタリングと管理

**【使用テキスト】**

- ・クリティカルケア看護学（医学書院）
- ・救急看護学（医学書院）

**【評価方法】**

- ・試験

---

**【単元】 集中治療室での看護（担当：クリティカルケア認定看護師 8時間）**

**【内容】**

1. 集中治療室とは
  - 1) 集中治療室の種類
  - 2) 集中治療室の構造と環境
2. 看護師の役割と求められる能力
  - 1) 看護師の役割
    - (1) 生命危機状態にある患者の看護
    - (2) 早期回復への援助
    - (3) 家族への援助
  - 2) 看護師に求められる能力
  - 3) 看護の専門性
3. クリティカルケアに必要な看護技術
  - 1) 呼吸管理
    - (1) 酸素療法
    - (2) 人工呼吸による呼吸管理（気管内挿管・気管切開・吸引）  
＜演習＞ 気管内吸引  
体位ドレナージ
    - (3) 人工呼吸器関連肺炎 (VAP) 予防策、口腔ケア
    - (4) 胸腔ドレナージ（胸水・気胸を含む）
  - 2) 鎮痛・鎮静管理
    - (1) 集中治療を受ける患者の鎮痛・鎮静の必要性
    - (2) 鎮痛管理

- (3) 鎮静管理
- 3) 早期回復への援助
  - (1) 早期リハビリテーションの概要
  - (2) 急性期リハビリテーション看護
- 4) 体液・循環管理
  - (1) 体液バランスと循環動態のモニタリング
  - (2) 輸液の管理
  - (3) 輸血
  - (4) 補助循環療法（IABP、PCPS、ペースメーカー、ICD）
  - (5) 血液浄化療法
- 5) 体温管理
  - (1) 体温の異常と全身への影響
  - (2) 体温管理の実際
- 6) 栄養管理の実際
  - (1) 栄養投与ルートを選択
  - (2) 経腸栄養
  - (3) 静脈栄養
  - (4) 重症患者への栄養と看護
- 7) ドレーン管理
  - (1) ドレーン管理の原則
  - (2) ドレーンの自己（事故）抜去の予防

**【使用テキスト】**

- ・クリティカルケア看護学（医学書院）
- ・呼吸器（医学書院）
- ・看護がみえる vol.2 臨床看護技術（メディックメディア）

**【評価方法】**

- ・試験

---

**【単元】クリティカルケアにおける臨床判断演習**

（担当：専任教員・救急看護認定看護師①②③ 10時間）

**【内容】**

1. クリティカルケアにおける臨床判断・シミュレーション演習
  - 1) 気道・呼吸・循環・意識に異常のある患者への対応  
模擬患者（シミュレーター）で救急場面でのフィジカルイグザミネーションを行い、クリティカルシンキングを実践してアセスメントし、臨床判断を行う
  - 2) ALS（二次救命処置）演習  
模擬患者（シミュレーター）で二次救命処置が必要な患者への対応の基礎およびチーム蘇生についてロールプレイを通じて学ぶ

**【使用テキスト】**

- ・ 救急看護学（医学書院）
- ・ 講師の準備する資料

**【評価方法】**

- ・ 演習、課題レポート
- ・ 受講姿勢（出席、主体的な取組の態度・参加度、提出期限）

# 専 門 分 野

老年看護学

小児看護学

母性看護学

精神看護学

看護の統合と実践

授業科目	老年看護学総論	講師名	専任教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルの中の老年期の身体的・心理的・社会的変化から老年看護の対象を理解する。</li> <li>2. 社会構造の変化・高齢化にともなう高齢者の生活を支える保健・医療・福祉の現状と課題を理解する。</li> <li>3. 加齢に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の役割を理解する。</li> </ol> <p><b>【内容】</b>（グループワーク・課題演習含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 加齢と老化</li> <li>2) 老化モデル</li> <li>3) 身体的・心理的・社会的側面の加齢変化とその影響</li> <li>4) 生涯発達の考え方</li> <li>5) 高齢者の生活</li> <li>6) 老年期とは</li> <li>7) 高齢者の発達課題</li> <li>8) 高齢者とその家族</li> <li>9) 統計的輪郭からの高齢者の理解わが国の高齢化、世帯、健康状態、経済状況、死亡状況</li> </ol> </li> <li>2. 高齢者を支える保健医療福祉制度 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健医療福祉制度の変遷</li> <li>2) 医療保険制度と高齢者ケア</li> <li>3) 介護保険制度と高齢者ケア</li> </ol> </li> <li>3. 高齢者を支える職種と活動の多様化</li> <li>4. 高齢社会における権利擁護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者差別</li> <li>2) 虐待</li> <li>3) 身体拘束</li> <li>4) 権利擁護制度</li> <li>5) 看護倫理原則</li> </ol> </li> <li>5. 老年看護とは <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老年看護の変遷と特徴</li> <li>2) 老年看護の展望と課題</li> </ol> </li> <li>6. 高齢者の残存機能の理解（シニアシミュレーター体験学習）</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老年看護学（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul>					

授業科目	老年看護学Ⅰ (日常生活援助と予防)	講師名	専任教員 病院歯科衛生士	26時間 4時間
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数 30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者によく見られる生活機能障害のアセスメントとケアについて理解する。</li> <li>2. 高齢者の身体的、心理的、社会的側面から生活機能の維持と介護予防の視点に着目でき、必要な日常生活援助を理解できる。</li> <li>3. 高齢者を支えるために必要な日常生活援助技術を修得する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】 日常生活援助と予防（担当：専任教員 26時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の日常生活のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日常生活を支える基本的活動</li> <li>2) 食事・食生活のアセスメントと看護</li> <li>3) フレイル・低栄養状態のアセスメントと看護</li> <li>4) 排泄のアセスメントと看護</li> <li>5) 清潔のアセスメントと看護</li> <li>6) 生活リズムのアセスメントと看護</li> <li>7) コミュニケーションのアセスメントと看護</li> <li>8) セクシャリティと社会参加</li> <li>9) 健康の維持と介護予防</li> </ol> </li> <li>2. 演習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活機能を整える看護の実際</li> <li>2) アクティビティのためのレクリエーションの企画と実践</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】 高齢者の口腔ケア（担当：病院歯科衛生士 4時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <p>高齢者の口腔ケア、義歯の手入れ（演習を含む）</p> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学（医学書院）</li> <li>・歯・口腔（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席レポート</li> </ul>				

授業科目	老年看護学Ⅱ (老年期に特有な健康障害の看護)	講師名	専任教員①	14 時間	
			専任教員②	8 時間	
			緩和ケア認定看護師	4 時間	
			皮膚・排泄ケア認定看護師	4 時間	
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<b>【目標】</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>健康障害をもつ高齢者の特徴、主たる治療、多い症候に対する看護を理解する。</li> <li>健康障害をもつ高齢者の問題を総合的にアセスメントし、実施、評価するための過程を理解する。</li> </ol>					
-----					
<b>【単元】治療を必要とする高齢者の看護（担当：専任教員① 8 時間）</b>					
<b>【内容】</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>外来を受診する高齢者の看護</li> <li>検査を受ける高齢者の看護</li> <li>薬物療法を受ける高齢者の看護</li> <li>治療や介護を必要とする高齢者の家族への看護</li> </ol>					
<b>【使用テキスト】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学（医学書院）</li> <li>・老年看護 病態・疾患論（医学書院）</li> </ul>					
<b>【評価方法】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験・課題</li> </ul>					
-----					
<b>【単元】高齢者の経過別看護（担当：専任教員① 6 時間）</b>					
<b>【内容】</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>急性期の高齢者への看護（手術療法）</li> <li>リハビリ期の高齢者への看護</li> <li>慢性期の高齢者への看護</li> </ol>					
<b>【使用テキスト】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学（医学書院）</li> <li>・老年看護 病態・疾患論（医学書院）</li> </ul>					
<b>【評価方法】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験・課題</li> </ul>					
-----					
<b>【単元】症候のアセスメントと看護（担当：専任教員③ 8 時間）</b>					
<b>【内容】</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>痛み</li> <li>掻痒（かゆみ）</li> <li>脱水</li> <li>嘔吐</li> </ol>					

**【使用テキスト】**

- ・ 老年看護学（医学書院）
- ・ 老年看護 病態・疾患論（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 試験・課題
- 

**【単元】 エンドオブライフケア（担当：緩和ケア認定看護師 4時間）**

**【内容】**

1. エンドオブライフケアの概念
2. 意思決定への支援
3. 末期段階に求められる援助

**【使用テキスト】**

- ・ 老年看護学（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 出席レポート
- 

**【単元】 褥瘡のアセスメントと看護（担当：皮膚・排泄ケア認定看護師 4時間）**

1. 褥瘡・スキナーケア
2. 褥瘡ケアの実際（演習）

**【使用テキスト】**

- ・ 老年看護学（医学書院）
- ・ 老年看護 病態・疾患論（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ 試験

授業科目	老年看護学Ⅲ	講師名	認知症看護認定看護師①	4時間	
	(認知機能障害の高齢者の看護)		認知症看護認定看護師②③	6時間	
			専任教員	5時間	
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	15時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症高齢者の生活への影響とそれに対する看護を理解する。</li> <li>・認知機能低下のある高齢者を総合的にアセスメントし、実施評価するための過程を理解する。</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】せん妄のある高齢者の特徴と看護（担当：認知症看護認定看護師① 4時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. せん妄の疾患の特徴と要因</li> <li>2. 症状と生活への影響とアセスメント</li> <li>3. 予防、治療と援助</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】認知症高齢者の看護（担当：認知症看護認定看護師②③ 6時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢による病態と要因</li> <li>2. 症状と生活への影響とアセスメント</li> <li>3. 予防、治療と援助</li> <li>4. 急性期一般病棟での援助</li> <li>5. 家族の支援とサポート</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】施設に入所している認知症高齢者の看護（担当：専任教員 5時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <p>事例展開（施設に入所中の認知症高齢者の看護）</p> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学（医学書院）</li> <li>・ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程（医歯薬出版）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック</li> </ul>					

授業科目	小児看護学総論	講師	専任教員		
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の変遷をその時代の小児観や小児医療の変遷から理解する。</li> <li>2. 子どもの成長・発達の基本的知識を理解する。</li> <li>3. 各発達段階の子どもの特徴について理解する。</li> <li>4. 子どもが基本的な生活習慣を身につける過程と養育および看護について理解する。</li> <li>5. 子どもの栄養の特徴、食生活と看護について理解する。</li> <li>6. 子どもにとっての家族の機能、子どもをもつ家族の特徴について理解する。</li> <li>7. 子どもと家族を取り巻く社会の状況、政策、諸問題について理解する。</li> </ol> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の特徴と理念 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児看護の目ざすところ</li> <li>2) 子どもと家族の動向</li> <li>3) 小児看護の変遷</li> <li>4) 小児看護における倫理</li> </ol> </li> <li>2. 子どもの成長・発達と看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成長・発達とは</li> <li>2) 成長の評価と発達の評価</li> </ol> </li> <li>3. 各期の子どもの成長・発達、健康、家族、看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳児</li> <li>2) 幼児・学童</li> <li>3) 思春期・青年期</li> </ol> </li> <li>4. 子どもの栄養と看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもにとっての栄養の意義</li> <li>2) 各期の子どもの栄養の特徴と看護</li> </ol> </li> <li>5. 家族の特徴とアセスメント <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもにとっての家族とは</li> <li>2) 子どもをもつ家族のアセスメント</li> </ol> </li> <li>6. 子どもと家族を取り巻く社会 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの福祉と保健に関する制度</li> <li>2) 子育て支援と子どもの医療</li> <li>3) 子どもの安全と学校保健</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終講試験</li> </ul>					

授業科目	小児の疾病と治療	講師	病院医師		
開講時期	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の疾患の病態・症状・治療について理解する。</li> <li>2. 小児の各期における疾患の特徴と治療・検査と看護について理解する。</li> </ol> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児科とは</li> <li>2. 免疫・アレルギー性疾患 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) アレルギーのメカニズム</li> <li>2) アレルギー性疾患（食物アレルギー、気管支喘息）</li> </ol> </li> <li>3. 呼吸器疾患 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 上気道の疾患（急性咽頭炎、クループ症候群）</li> <li>2) 気管支・肺・胸膜疾患（急性気管支炎、細気管支炎、肺炎）</li> </ol> </li> <li>4. 血液・造血器疾患 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 貧血</li> <li>2) 出血性疾患（血友病、ビタミンK欠乏症、特発性血小板減少性紫斑病、血管性紫病）</li> </ol> </li> <li>5. 腎・泌尿器および生殖器疾患 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 糸球体疾患 （溶レン菌感染症後急性糸球体腎炎、紫斑病性腎炎、ループス腎炎、ネフローゼ症候群）</li> <li>2) 尿路の疾患（水腎症、膀胱尿管逆流）</li> <li>3) 生殖器・外性器の疾患（停留精巣、尿道下裂）</li> </ol> </li> <li>6. 消化器疾患 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 食道の疾患（食道閉鎖症）</li> <li>2) 胃・十二指腸の疾患（肥厚性幽門狭窄症）</li> <li>3) 小腸・大腸の疾患（ヒルシュスプルング病、鎖肛・直腸肛門奇形、腸重積症）</li> <li>4) 腹膜・腹壁の疾患（腹膜破裂、臍ヘルニア、外鼠径ヘルニア）</li> <li>5) 肝臓・胆道の疾患（胆道閉鎖症）</li> <li>6) 急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎（ロタウイルス感染症、ノロウイルス感染症）</li> </ol> </li> <li>7. 循環器疾患 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 先天性心疾患（心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症）</li> <li>2) 川崎病</li> <li>3) 突然死（乳幼児突然死症候群）</li> </ol> </li> <li>8. 新生児の疾患 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新生児の疾患</li> <li>2) 低出生体重児の疾患</li> </ol> </li> <li>9. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 染色体異常概論</li> </ol> </li> </ol>					

- 2) 常染色体異常
- 3) 性染色体異常
- 4) 胎芽病と胎児病

#### 10. 感染症

- 1) 子どもの感染に関する基本的知識
- 2) ウイルス感染症（麻疹、風疹、伝染性紅斑、突発性発疹症、水痘、手足口病、咽頭結膜炎、流行性耳下腺炎、他）
- 3) 細菌感染症（百日咳、ジフテリア、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群、他）

#### 11. 神経疾患

- 1) けいれん性疾患（てんかん、熱性けいれん）
- 2) 脳性麻痺
- 3) 筋性麻痺（筋ジストロフィー、重症筋無力症）

#### 12. 代謝性疾患

- 1) 新生児マスースクリーニング
- 2) 先天代謝異常症（ムコ多糖症、骨形成不全症）
- 3) 代謝性疾患（糖尿病、低血糖症、アセトン血清嘔吐症）

#### 13. 内分泌疾患

- 1) 下垂体疾患（成長ホルモン分泌不全性低身長症）

#### 14. 悪性新生物

- 1) 総論
  - (1) 疫学
  - (2) 診断・治療
- 2) 造血器腫瘍（急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、リンパ腫）
- 3) 脳腫瘍（小脳腫瘍、幹脳部腫瘍）
- 4) その他の固形腫瘍（神経芽腫、ウィルムス腫瘍）

#### 【使用テキスト】

- ・小児臨床看護各論（医学書院）

#### 【評価方法】

- ・試験

授業科目	小児看護学 I (子どもと家族の看護)	講師	専任教員		
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病・障害および状況（環境）が子どもと家族に及ぼす影響について理解する。</li> <li>2. 疾病をもつ子どもと家族の看護の特徴を経過別に理解する。</li> <li>3. 子どもの身体的アセスメントの目的と必要性、知識・技術を理解する。</li> <li>4. 子どもの検査・処置について、支援の方法と看護を理解する。</li> </ol> <hr/> <p>様々な状況にある子どもと家族の看護</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病気・障害が子どもときょうだい・家族に与える影響</li> <li>2) 子どもの健康問題と看護</li> </ol> </li> <li>2. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入院中の子どもと家族の看護</li> <li>2) 外来における子どもと家族の看護</li> <li>3) 在宅療養中の子どもと家族の看護</li> <li>4) 災害時の子どもと家族の看護</li> </ol> </li> <li>3. 子どもにおける疾病の経過と看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 慢性期にある子どもと家族の看護</li> <li>2) 急性期にある子どもと家族の看護</li> <li>3) 周手術期の子どもと家族の看護</li> <li>4) 終末期にある子どもと家族の看護</li> </ol> </li> <li>4. 子どものアセスメント <ol style="list-style-type: none"> <li>1) アセスメントに必要な技術</li> <li>2) 身体的アセスメント</li> </ol> </li> <li>5. 検査・処置を受ける子どもの看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもにとっての検査・処置の体験</li> <li>2) 心理的準備の必要性</li> <li>3) 子どもの対処行動を支援する</li> </ol> </li> <li>6. 障害のある子どもと家族の看護</li> <li>7. 子どもの虐待と看護</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul>					

授業科目	小児看護学Ⅱ (小児の疾患と看護、看護技術)	講師	病院看護師 10 時間 専任教員 20 時間		
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの各疾患の看護と、小児看護の実際を理解する。</li> <li>2. 症状のある子どもに必要な援助の意義と方法、看護について理解する。</li> <li>3. 子どもの事故と外傷について理解し、看護を考えることができる</li> <li>4. 子どもと家族に対する情報収集・アセスメント・援助の方向性を理解する。</li> <li>5. 小児看護として必要な支援・援助、看護技術を理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> 小児の各疾患の看護 (担当：病院看護師 10 時間)</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 染色体異常・胎内環境により発生する先天異常と看護       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ダウン症候群の子どもの看護</li> </ol> </li> <li>2. ハイリスク新生児の看護       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 低出生体重児の看護</li> <li>2) 高ビリルビン血症の新生児の看護</li> </ol> </li> <li>3. 呼吸器疾患と看護       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 上気道症状をもつ子どもの看護</li> <li>2) 肺炎・細気管支炎の子どもの看護</li> </ol> </li> <li>4. アレルギー疾患と看護       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 気管支喘息の子どもの看護</li> <li>2) 食物アレルギーの子どもの看護</li> </ol> </li> <li>5. 循環器疾患と看護       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ファロー四徴症の子どもの看護</li> <li>2) 川崎病の子どもの看護</li> </ol> </li> <li>6. 腎・泌尿器・生殖器疾患と看護       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ネフローゼ症候群の子どもの看護</li> <li>2) 尿路感染症の子どもの看護</li> </ol> </li> <li>7. 血液・造血器疾患と看護       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 免疫性血小板減少症の子どもの看護</li> <li>2) 再生不良性貧血の子どもの看護</li> </ol> </li> <li>8. 運動器疾患と看護       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 牽引中・ギプス装着中の子どもの看護</li> <li>2) 先天性股関節脱臼の子どもの看護</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児臨床看護各論 (医学書院)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験</li> </ul>					

【単元】小児の事例展開と看護技術（担当：専任教員 20 時間）

【内容】

1. 症状を示す子どもの看護
  - 1) ふきげん
  - 2) 啼泣
  - 3) 子どもの痛み
2. 子どもの事故・外傷と看護
  - 1) 不慮の事故
  - 2) おもな事故・外傷と看護
    - ①誤飲・誤嚥
3. 小児看護の看護過程
  - 1) 事例による看護過程の展開
4. 小児看護技術の基本（演習）
  - 1) 小児のコミュニケーション
  - 2) 小児看護における遊び
  - 3) 小児の看護技術
    - ①ネブライザーを用いた気道内加湿
    - ②子どもの血圧測定
    - ③子どもの清拭・更衣
  - 4) 子どもの視線・視界の体験
  - 5) 幼児の発達段階を考えた保育園実習用名札の作成

【使用テキスト】

- ・ 小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院）
- ・ 小児臨床看護各論（医学書院）

【評価方法】

- ・ 試験

授業科目	母性看護学総論	講師	専任教員 13 時間 外部講師 2 時間
開講時期	1 年次	単位数	1 単位 時間数 15 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>母性看護の基盤となる概念を理解し、母性看護における健康支援の考え方を理解できる。</li> <li>女性と母子を取り巻く社会的背景や、母子保健に関する法・施策の概要を理解できる。</li> <li>女性のライフサイクルにおける主な健康課題を理解し、各期に応じた看護の基本的役割を説明できる。</li> <li>対象を尊重し、その人らしい選択と健康を支える母性看護の姿勢を言語化できる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】母性看護学概論</b>（担当：専任教員 13 時間）</p> <p><b>【内容】</b>（グループワークを含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>母性看護の基盤となる概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>母性とは</li> <li>母子関係と家族発達</li> <li>セクシュアリティ（人間の性）</li> <li>リプロダクティブヘルス／ライツ</li> <li>ヘルスプロモーション</li> <li>ウェルネス</li> <li>プレコンセプションケア</li> </ol> </li> <li>母性看護の対象を取り巻く環境や社会の変遷 <ol style="list-style-type: none"> <li>母子を取り巻く環境</li> <li>妊娠期からの切れ目ない支援に関する法や施策</li> <li>働く妊産婦への支援に関する法や施策</li> <li>女性の健康支援に関する法や施策</li> </ol> </li> <li>女性のライフサイクル各期の特徴と看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>思春期・成熟期・更年期・老年期</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>母性看護学概論（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>終講試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】女性の健康課題と支援</b>（担当：外部講師 2 時間）</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>リプロダクティブヘルスケアの実際</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>母性看護学概論（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席レポート</li> </ul>			

授業科目	母性看護学Ⅰ (周産期の看護)	講師	病院医師 病院助産師	20 時間 10 時間
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数 30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期にある対象の生理と病態について理解できる。</li> <li>2. 周産期にある対象の健康問題と看護について理解できる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> 周産期の正常と異常 (担当：病院医師 20 時間)</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期の正常な経過 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊娠期の身体的特性 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 妊娠の生理</li> <li>(2) 胎児の発育とその生理</li> <li>(3) 母体の生理的変化</li> </ol> </li> <li>2) 妊婦と胎児のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 妊娠とその診断</li> <li>(2) 妊娠期に行う検査とその目的</li> <li>(3) 胎児の発育と健康状態の診断</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. 妊娠の異常 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 流産・早産</li> <li>2) 感染症</li> <li>3) 常位胎盤早期剥離</li> <li>4) 前置胎盤</li> <li>5) 妊娠高血圧症候群</li> <li>6) 妊娠糖尿病</li> </ol> </li> <li>3. 分娩期の正常な経過 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 分娩の要素</li> <li>2) 分娩の経過</li> </ol> </li> <li>4. 分娩の異常 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 前期破水</li> <li>2) 帝王切開術</li> <li>3) 産科出血</li> <li>4) 胎児機能不全</li> </ol> </li> <li>5. 産褥期の正常な経過 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 産褥期の身体的変化</li> <li>2) 産褥経過の診断</li> </ol> </li> </ol>				

6. 産褥の異常

- 1) 子宮復古不全
- 2) 産褥熱
- 3) 産褥血栓症
- 4) 乳腺炎
- 5) 産後うつ

7. 新生児期の生理

- 1) 新生児とは
- 2) 新生児の機能

8. 新生児のアセスメント

- 1) 新生児の診断

9. 新生児の異常

- 1) 新生児の健康逸脱
- 2) 新生児仮死、新生児蘇生
- 3) 早産児・低出生体重児

【使用テキスト】

- ・母性看護学各論（医学書院）

【評価方法】

- ・試験

---

【単元】周産期の健康問題と看護（担当：病院助産師 10時間）

【内容】

1. 妊娠期の異常と看護
  - 1) 切迫流産・切迫早産
  - 2) 妊娠高血圧症候群
  - 3) 妊娠糖尿病
2. 産褥期の健康問題に対する看護
  - 1) 帝王切開術前後の看護
  - 2) メンタルヘルスケア
3. 早期新生児の健康問題に対する看護
  - 1) 出生直後の生理的変化と異常
  - 2) 出生直後の看護と新生児蘇生

【使用テキスト】

- ・母性看護学各論（医学書院）
- ・根拠がわかる母性看護技術（南江堂）

【評価方法】

- ・試験

授業科目	母性看護学Ⅱ (妊娠期・分娩期の看護)	講師	助産所助産師	10 時間	
			専任教員①	5 時間	
			専任教員②	15 時間	
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

【目標】

1. 妊娠・分娩の生理的变化を理解し、妊娠期から分娩期の母子の健康状態をアセスメントできる。
2. 妊娠・出産を生活の中の出来事として理解し、妊婦・産婦の生活背景をふまえて必要な看護を理解する。
3. 妊産婦が利用できる母子保健サービスや支援体制を理解し、妊産婦と家族が活用できるよう支援する視点を理解する。
4. 母子の安全・安楽と安寧を守り、肯定的な出産体験を支援する看護の役割を理解する。
5. シミュレーション演習を通して、母子の状態に応じた看護を考え、実践できる。

【単元】妊娠期の看護（担当：助産所助産師 10 時間）

【内容】

1. 妊婦と胎児の健康と生活のアセスメント
  - 1) 妊娠期の心理・社会的特性
  - 2) 妊婦と胎児のアセスメント
    - (1) 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント
    - (2) 日常生活に関するアセスメント
  - 3) 妊婦と家族の看護
    - (1) 妊婦が受ける母子保健サービス
    - (2) 妊婦の健康相談・教育の実際
    - (3) 親になるための準備教育
2. 妊娠期の健康問題に対する看護
  - 1) ハイリスク妊婦の看護
    - (1) 高年妊婦・若年妊婦の看護
    - (2) 社会的ハイリスク要因をもつ妊婦の支援

【使用テキスト】

- ・母性看護学各論（医学書院）
- ・根拠がわかる母性看護技術（南江堂）

【評価方法】

- ・試験

【単元】妊娠期の看護演習（担当：専任教員① 5 時間）

【内容】（グループワーク・演習を含む）

1. 妊婦と家族のヘルスアセスメント
2. 妊婦と家族の看護シミュレーション演習

**【使用テキスト】**

- ・母性看護学各論（医学書院）
- ・根拠がわかる母性看護技術（南江堂）

**【評価方法】**

- ・演習・課題

---

**【単元】** 分娩期の看護（担当：専任教員② 15 時間）

**【内容】**（グループワーク・演習を含む）

1. 産婦・胎児、家族のアセスメント
  - 1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント
  - 2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント
2. 産婦と家族の看護
  - 1) 看護目標と産婦のニード
  - 2) 安全・安楽な分娩への看護
  - 3) 出産体験が肯定的になる（よいお産になる）ための看護
  - 4) 基本的ニードに関する看護
  - 5) 家族発達を促す看護
3. 分娩期の看護の実際
  - 1) 分娩第 1 期の看護
  - 2) 分娩第 2 期の看護
  - 3) 分娩第 3・4 期の看護
4. 分娩期の健康問題に対する看護
  - 1) 破水が生じた産婦の看護
  - 2) 分娩時異常出血のある産婦の看護
5. 分娩期の看護演習
  - 1) 産婦と家族のヘルスアセスメント
  - 2) 産婦と家族の看護シミュレーション演習

**【使用テキスト】**

- ・母性看護学各論（医学書院）
- ・根拠がわかる母性看護技術（南江堂）

**【評価方法】**

- ・試験、演習・課題

授業科目	母性看護学Ⅲ (産褥期・新生児期の看護)	講師	専任教員①	20 時間	
			専任教員②	10 時間	
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>産褥早期の褥婦と早期新生児の生理的変化について、妊娠期・分娩期の母子の健康状態をふまえて経過に応じたアセスメントができる。</li> <li>褥婦の退行性変化・進行性変化および新生児の子宮外生活適応を促進する看護について理解する。</li> <li>母親役割獲得・家族形成の過程を理解し、母子と家族の適応を支援する看護を理解する。</li> <li>シミュレーション演習を通して、母子の状態に応じた看護を考え、実践できる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】産褥期の生理的変化と看護</b> (担当：専任教員① 20 時間)</p> <p><b>【内容】(グループワーク・演習を含む)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>産褥経過       <ol style="list-style-type: none"> <li>産褥期の身体的、心理・社会的変化</li> <li>褥婦の健康状態のアセスメント</li> <li>褥婦と家族の看護           <ol style="list-style-type: none"> <li>身体機能の回復および進行性変化への看護</li> <li>母親役割獲得、家族関係再構築への看護</li> <li>産後の生活と子育て支援</li> </ol> </li> <li>褥婦と家族の看護シミュレーション演習</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>母性看護学各論 (医学書院)</li> <li>根拠がわかる母性看護技術 (南江堂)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験、演習・課題</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】新生児期の生理的変化と看護</b> (担当：専任教員② 10 時間)</p> <p><b>【内容】(グループワーク・演習を含む)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>早期新生児の生理的変化</li> <li>早期新生児の健康状態とアセスメント</li> <li>出生後から退院時までの看護</li> <li>早期新生児の全身の観察と沐浴演習</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>母性看護学各論 (医学書院)</li> <li>根拠がわかる母性看護技術 (南江堂)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験、演習・課題</li> </ul>					

授業科目	精神看護学総論	講師	看護師	20 時間	
			大学教員①②	10 時間	
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護学の概念の理解できる。</li> <li>2. 精神看護の役割や対象への援助の概略を理解できる。</li> <li>3. 精神医療の歴史を知り、今後の精神医療のあり方について理解できる。</li> <li>4. 精神保健医療福祉における法制度について理解できる。</li> <li>5. 地域における精神保健と精神看護の役割について理解できる</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】精神看護学概論（担当：看護師 20 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護学で学ぶこと       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神看護学とはなにか</li> <li>2) 精神障害を持つ人の病の体験と精神看護</li> <li>3) 「心のケア」と日本社会</li> <li>4) 精神看護の課題</li> </ol> </li> <li>2. 精神保健の考え方       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神の健康とは</li> <li>2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響</li> <li>3) 心的外傷（トラウマ）と回復</li> <li>4) 精神障害という考え方</li> </ol> </li> <li>3. 心のはたらきと人格の形成       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心のはたらき</li> <li>2) 心のしくみと人格の発達</li> </ol> </li> <li>4. 関係のなかの人間       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) システムとしての人間関係</li> <li>2) 人間と集団</li> </ol> </li> <li>5. 社会のなかの精神障害       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神障害と治療の歴史</li> <li>2) 日本における精神医学・精神医療の流れ</li> <li>3) 精神障害と文化—多様性と普遍師</li> </ol> </li> <li>6. 入院治療の意味       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神科を受診するということ</li> <li>2) 治療の器の病院・病棟</li> </ol> </li> <li>7. 医療の場におけるメンタルヘルスと看護       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身体疾患を持つ患者のメンタルヘルス</li> <li>2) リエゾン精神看護とその活動</li> </ol> </li> </ol>					

3) リエゾンナースの活動の実際

8. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス

1) 看護師の不安と防衛

2) 感情労働としての看護

3) 看護師の感情ワーク

4) 看護における共感の光と影

5) 感情労働の代償と社会

6) 共感労働の予防

【使用テキスト】

- ・ 精神看護の基礎（医学書院）
- ・ 精神看護の展開（医学書院）

【評価方法】

- ・ 試験

---

【単元】精神保健（担当：大学教員①② 10時間）

【内容】

1. 精神保健医療福祉の法制度と看護

- 1) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
- 2) 精神保健福祉医療に関する法制度
- 3) 心の健康に関する普及啓発
- 4) 患者の権利擁護

2. 地域における精神保健と看護

- 1) 家族・家庭の精神保健
- 2) 学校と精神保健
- 3) 職場における精神保健

【使用テキスト】

- ・ 精神保健学（ヌーヴェルヒロカワ）

【評価方法】

- ・ 試験

授業科目	精神疾患・症状と治療	講師	病院医師	15 時間	
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神機能(思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶など)の障害である、さまざまな精神症状を理解できる。</li> <li>2. 精神障害の診断と分類、それに基づくさまざまな精神障害について理解できる。</li> <li>3. 精神科で行われている薬物療法について、正しい知識を得られる。</li> <li>4. 精神科で行われているその他の治療について理解できる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】 主な疾患と疾患の治療 (担当：精神科医 15 時間)</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神疾患のあらわれ方       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神を病むことと生きること</li> <li>2) 精神症状論と状態像 — 理解への手がかり</li> <li>3) 精神障害の診断と分類           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 診断と疾病分類</li> <li>(2) 統合失調症</li> <li>(3) 気分 [感情] 障害 (双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群)</li> <li>(4) 神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害</li> <li>(5) 精神作用物質使用による精神および行動障害</li> <li>(6) 各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調</li> <li>(7) その他</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. 精神科での治療       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神科における治療</li> <li>2) 薬物療法           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 精神科治療における薬物療法の意義</li> <li>(2) 向精神薬とその種類</li> </ol> </li> <li>3) 精神療法           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個人療法</li> <li>(2) 集団療法</li> <li>(3) 家族療法</li> </ol> </li> <li>4) 電気けいれん療法とその他の身体療法</li> <li>5) 環境療法・社会療法</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 精神看護の基礎 (医学書院)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul>					

授業科目	精神看護学Ⅰ (病期別看護・社会復帰 支援・対象理解)	講師	病院看護師	10 時間	
			精神保健福祉士	6 時間	
			専任教員	14 時間	
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床での各病期の、特徴的な看護の視点を理解できる。</li> <li>2. 入院治療中における、多職種連携での看護師の役割を理解できる。</li> <li>3. 社会復帰にむけた、地域社会で生活に必要な支援について理解できる。</li> <li>4. 精神看護における、自己理解・他者理解・自己活用する技術について理解できる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】 病期別看護の特徴（担当：病院看護師 10 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床の現場で回復を支援する       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床現場でのリハビリの試みと看護の視点</li> <li>2) 臨床でのさまざまな回復のためのプログラム</li> <li>3) 臨床における、多職種連携での看護師の役割の実際</li> </ol> </li> <li>2. 安全をまもる       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) リスクマネジメントの考え方と方法           <ol style="list-style-type: none"> <li>①安全の条件</li> <li>②リスクマネジメントと行動制限               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リスクマネジメントとトラウマインフォームド - ケア</li> <li>・ 行動制限についての考え方</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> </li> <li>3. 精神科におけるフィジカルアセスメントの難しさ       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神科における身体を通した看護ケアの実際</li> <li>2) 精神科の治療に伴う身体ケア           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 錐体外路症状(パーキンソンニズム・アカシジア・ジストニア)</li> <li>・ 抗コリン作用(口渇・多飲水・巨大結腸症・イレウス)</li> <li>・ 遅発性ジスキネジア・悪性症候群</li> <li>・ 電気けいれん療法を受ける患者のケア</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 精神看護の展開 (医学書院)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】 社会復帰を支援するケア（担当：精神保健福祉士 6 時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域におけるケアと支援       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「器」としての地域</li> </ol> </li> </ol>					

- 2) 地域における生活支援の方法
- 3) 地域におけるケアの方法と実際
2. 退院に向けての支援と実際
  - 1) 精神科医療における多職種連携の実際
3. 精神科リハビリテーション（当事者参加型演習）
  - 1) 精神科デイケアの実際

**【使用テキスト】**

- ・精神看護の基礎（医学書院）
- ・精神看護の展開（医学書院）

**【評価方法】**

- ・試験

---

**【単元】 ケアの人間関係 （担当：専任教員 14 時間）**

**【内容】**

1. ケアの人間関係
  - 1) ケアの前提（自己理解・他者理解・自己活用）
  - 2) ケアの原則
  - 3) ケアの方法
  - 4) 関係性をアセスメントする（プロセスレコードの作成と活用方法）
  - 5) 患者 - 看護師関係における感情体験（プロセスレコードを用いたカンファレンス）
  - 6) 対象者理解（ストレングスマッピングシートの作成方法）
2. 対象理解（当事者参加型演習）
  - 1) ストレングスマッピングシートの作成と発表

**【使用テキスト】**

- ・精神看護の基礎（医学書院）
- ・精神看護の展開（医学書院）
- ・ストレングスからみた精神看護過程（医学書院）

**【評価方法】**

- ・試験・課題

授業科目	精神看護学Ⅱ (主な疾患の看護・看護過程)	講師	専任教員① 専任教員②	20 時間 10 時間	
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習知識を活用し、精神看護における対象の理解と関わり方を理解する。</li> <li>2. 精神の健康に障害のある対象者に対する情報収集・アセスメント・援助の方向性を理解する。</li> <li>3. 主な精神疾患・障害のアセスメントと日常生活を整えるための援助を理解する。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b> 主な疾患の看護① 看護過程 (担当：専任教員① 20 時間)</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護の特徴       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神看護の考え方</li> <li>2) 精神看護のキーワード(リカバリー・レジリエンス)</li> </ol> </li> <li>2. 看護過程の基本       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神看護過程の特徴</li> <li>2) 精神看護過程の3つのモデル (ストレングスモデル・BPSモデル・セルフケアモデル)</li> <li>3) 精神看護過程のステップ</li> </ol> </li> <li>3. 看護過程：統合失調症 『急性期後の消耗期』から『回復期』にかけてのリカバリー       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 情報収集とアセスメントの目的と方法</li> <li>2) 日常生活を整えるための看護</li> </ol> </li> <li>4. 各精神疾患・障害のアセスメントと日常生活を整えるための援助       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 気分〔感情〕障害〔双極性障害および関連障害群, 抑うつ障害〕の患者の看護</li> <li>2) 神経症性障害, ストレス関連性および身体表現性障害の患者の看護           <ul style="list-style-type: none"> <li>・恐怖症性不安障害・強迫障害・重度ストレス反応および適応障害</li> <li>・解離性(転換性)障害・身体表現性障害・その他の神経症性障害</li> </ul> </li> <li>3) 精神作用物質使用による精神および行動の障害の患者の看護           <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルコール症</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神看護の基礎 (医学書院)</li> <li>・精神看護の展開 (医学書院)</li> <li>・ストレングスからみた精神看護過程 (医学書院)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験・課題</li> </ul>					

-----  
【単元】主な疾患の看護② (担当：専任教員② 10時間)

【内容】

各精神疾患・障害のアセスメントと日常生活を整えるための援助

- 1) 各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調の患者の看護
  - ・知的障害・てんかん・発達障害・摂食障害・パーソナリティ障害・秩序破壊的
  - ・衝動制御・素行障害群・適応障害
- 2) その他の障害のある患者の看護
  - ・睡眠障害・性別違和・性別不合・心身症

【使用テキスト】

- ・精神看護の基礎（医学書院）

【評価方法】

- ・試験・課題

授業科目	臨床判断演習Ⅱ	講師	専任教員① 10時間 専任教員② 10時間 専任教員③ 10時間
開講時期	2年次	単位数	1単位 時間数 30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルスアセスメント（患者の心情にも注目できる）を行い、実際のケアに結びつけていく態度を養う。</li> <li>2. クリティカルシンキングを実践して臨床判断を行い、診療の補助として必要な援助を考えることができ、日常生活の援助が実施できる。</li> <li>3. 事例を通して臨床判断の思考過程を修得し、総合的に必要な知識・技術、看護師として望ましい態度について考え、自己の課題を明確にできる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【履修条件】</b></p> <p>専門領域の臨地実習に進む見込みがあること。 全ての演習に参加できる見込みがあること。（OSCEに向けて全ての演習が組まれているため）</p> <hr/> <p><b>【単元】臨床判断演習（クリティカルシンキング）（担当：専任教員① 10時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シナリオ・シミュレーション学習 グループにて 教育用電子カルテから必要な情報の収集、シミュレーターで正しいフィジカルイグザミネーションを行い、クリティカルシンキングを実践して臨床判断をし、診療の補助として必要な援助を実施する</li> </ol> <p><b>【使用テキスト等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Medi-EYE（教育用電子カルテ）</li> <li>・ 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント（メディックメディア）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習・課題、受講姿勢（出席、主体的な取組の態度・参加度、提出期限）</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】臨床判断演習（日常生活援助）（担当：専任教員② 10時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シナリオ・シミュレーション学習 グループにて シミュレーターで事例模擬患者のヘルスアセスメントを行い、クリティカルシンキングを 実践して臨床判断を行い、日常生活の援助を実施する</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <p>講師の準備する資料</p> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習・課題、受講姿勢（出席、主体的な取組の態度・参加度、提出期限）</li> </ul>			

【単元】 OSCE（担当：専任教員③ 10時間）

【内容】

1. 模擬患者でのヘルスアセスメントを行い、クリティカルシンキングを実践して臨床判断を行い、援助を実施する

【使用テキスト】

講師の準備する資料

【評価方法】

- ・パフォーマンス評価

【合格基準】

臨床判断演習（クリティカルシンキング・日常生活援助）50点

OSCE 50点 それぞれ配点の6割

授業科目	看護の統合 I (看護研究)	講師	専任教員		
開講時期	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護職にとって研究とは何か、看護研究の意義が説明できる。</li> <li>2. 自分が取り組む研究テーマ領域の知識を獲得することができる。</li> <li>3. 研究におけるリサーチクエスションの重要性が理解できる。</li> <li>4. 研究テーマに関する先行研究のレビューができ、文献を整理することができる。</li> <li>5. 準実験研究を通じて、看護研究の一連のプロセスを体験できる。</li> <li>6. 興味・関心・探求心をもち主体的に研究に取り組むことができる。</li> <li>7. 個々の役割を明確にし、共同研究するチームの一員として貢献することができる。</li> <li>8. 研究実施における倫理の必要性を理解することができる。</li> </ol> <hr/> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の目的と意義 情報リテラシー 研究における倫理</li> <li>2. PICO と PECO 文献のクリティーク・整理</li> <li>3. 準実験研究の進め方 プロトコール作成方法</li> <li>4. 文献検討の実際・研究課題の明確化作業（演習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 文献カードの作成</li> <li>2) 研究論文整理表の作成</li> <li>3) 研究ワークシートの作成</li> </ol> </li> <li>5. 準実験研究の実施（グループワーク演習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 準実験プロトコールの検討及び作成</li> <li>2) 準実験研究の実施</li> </ol> </li> <li>6. 研究成果の発表 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発表資料の作成及び発表方法の基本ルールとマナー</li> <li>2) 発表構想シートの作成</li> <li>3) 相互評価表の記入</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護研究（医学書院）</li> <li>・改訂 5 版 看護研究サポートブック 看護研究がラクラク完成（メディカ出版）</li> <li>・よくわかる看護職の倫理綱領（照林社）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック</li> </ul>					

授業科目	看護の統合Ⅱ (看護管理・医療安全)	講師	認定看護管理者	8時間		
			専任教員	8時間		
			病院医療安全管理者	14時間		
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数	30時間	
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護サービスのマネジメントと医療安全についての基礎的知識と実際を学ぶ。</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】看護管理（担当：認定看護管理者 8時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>看護におけるマネジメント</li> <li>看護ケアのマネジメント</li> <li>看護職としてのセルフマネジメント</li> <li>看護サービスのマネジメント</li> <li>マネジメントに必要な知識と技術</li> <li>看護政策と諸制度</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護管理（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】医療安全①（担当：専任教員 8時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医療安全を学ぶことの大切さ</li> <li>事故防止の考え方</li> <li>業務領域をこえて共通する間違いと発生要因</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】医療安全②（担当：病院医療安全管理者 14時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>診療の補助の事故防止 <ol style="list-style-type: none"> <li>患者に投与する業務における事故防止</li> <li>継続中の医療行為の観察・管理における事故防止</li> </ol> </li> <li>療養上の世話における医療事故（インシデントレポート・KYTの活用）</li> <li>医療安全とコミュニケーション</li> <li>看護師の労働安全衛生上の事故防止</li> </ol>						

5. 組織的な安全管理への取り組み

6 医療安全対策の国内外の潮流

7. 演習：事例演習 事例の分析方法（時系列分析）

【使用テキスト】

- ・ 医療安全（医学書院）

【評価方法】

- ・ 試験

授業科目	看護の統合Ⅲ (国際看護・災害看護)	講師	大学教員① 8時間 大学教員② 4時間 専任教員 16時間 病院看護師 2時間		
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 諸外国における保健・医療・福祉の動向と課題など、国際看護に関連する基礎的知識を理解する。</li> <li>2. 災害看護における医療・看護の役割を理解し、具体的な活動を実践できる基礎的能力を身につける。</li> </ol> <hr/> <p><b>【単元】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際看護 (担当：大学教員① 8時間)</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康を取り巻く世界の情勢と国際看護</li> <li>2. 国際協力の基礎知識</li> <li>3. 国際協力と看護</li> <li>4. 21世紀の国際協力の課題</li> <li>5. 在留外国人への看護</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害看護学・国際看護学 (医学書院)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題レポート</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害概論 (担当：大学教員② 4時間)</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害の定義と分類</li> <li>2. 国内外の災害状況と対策 (演習を含む)</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害看護学・国際看護学 (医学書院)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席レポート</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害看護概論 (担当：専任教員 16時間 病院看護師 2時間)</li> </ul>					

## 【内容】

1. 災害看護の歩み
  - 1) 災害看護のはじまり
  - 2) 災害看護の組織化
  - 3) 災害看護の発展
2. 災害医療の基礎知識
  - 1) 災害の定義
  - 2) 災害の種類と健康障害
  - 3) 災害医療の特徴
  - 4) 災害サイクルから考える災害医療
  - 5) わが国の災害医療体制
3. 災害看護と法律
  - 1) 災害対策基本法
  - 2) 災害救助法
  - 3) 被災者支援制度
4. 災害看護の基礎知識
  - 1) 災害看護の定義と役割
  - 2) 災害看護の対象
  - 3) 災害看護の特徴
  - 4) 災害看護における倫理課題
  - 5) 災害看護活動に必要な情報
  - 6) 災害看護におけるアセスメント
5. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護
  - 1) 急性期・亜急性期
  - 2) 慢性期・復興期
  - 3) 静穏期
6. 災害とこころのケア
  - 1) 災害がもたらす精神的影響
  - 2) こころのケアの基本
  - 3) 被災者のこころのケア
  - 4) 遺族のこころのケア（グリーフケア）  
（演習）被災者と支援ナースを体験して、こころのケアについて考える
  - 5) 救援者のストレスとこころのケア
7. 避難所の生活にについて考える（課題・演習）

課題

  - 1) 避難所として必要な設備・スペースおよび配置
  - 2) 避難生活が被災者に及ぼす身体的・心理的影響
  - 3) 看護師としてのアセスメントと対応
8. 地震災害看護の展開（病院看護師）
  - 1) 発災直後から救護班として出動するまでの看護
  - 2) 急性期・亜急性期の救護班における看護

## 【使用テキスト】

- ・ 災害看護学・国際看護学（医学書院）

## 【評価方法】

- ・ 試験・課題

授業科目	看護の統合Ⅳ (看護の省察・看護のまとめ)	講師	専任教員① 20 時間 専任教員② 6 時間 専任教員③ 4 時間
開講時期	3 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間
<p>【目標】</p> <p>・ 臨地実習での経験を省察し、これまでの学びを総合的に評価する。</p> <hr/> <p>【単元】</p> <p>・ 看護の省察 (担当：専任教員① 20 時間)</p> <p>【内容】</p> <p>2 年生で学んだ看護に対する研究的視点を踏まえ、これまで学んできた講義や臨地実習を通して、体験や気づきを基にした研究疑問を明確化することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究疑問の明確化作業</li> <li>2. 課題レポートの作成</li> <li>3. 取り組んだ研究疑問および看護の省察の発表</li> </ol> <p>【使用テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「看護研究」(医学書院)</li> <li>・ 改訂 5 版 看護研究サポートブック 研究計画書がラクラク完成！(メディカ出版)</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルーブリック</li> </ul> <hr/> <p>【単元】</p> <p>・ 看護のまとめ</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「看護の本質」(担当：専任教員② 10 時間) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護とは、看護の定義</li> <li>2) 専門職とは、専門職業人とは</li> <li>3) 看護倫理について</li> </ol> </li> <li>2. グループワーク (担当：専任教員③ 6 時間) <p>3 年間の臨地実習を終えての振り返り</p> <p>専門職業人として私たちが目指す看護 (ラベルワーク)</p> </li> <li>3. 発表 (担当：専任教員② 4 時間)</li> </ol> <p>【使用テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護学概論 (医学書院)</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題、受講姿勢</li> </ul>			

## 授 業 要 項

2026（令和8）年4月 発刊  
発行：富士市立看護専門学校

〒416-0904 静岡県富士市本市場新田 111-1  
TEL 0545-64-3131 FAX 0545-64-3135